

〔神田川哀歌〕

金の卵 1970

作 三浦 実夫

◆登場人物◆

- 鉄男 (二八) 染色デザイナー
夏子 (二五) 鉄男の妻・医師
風子 (二二) 看護学生
竜二 (二八) 染め職人
朴 (五〇) 朝鮮人の層屋
ヨシ (二〇) 朴の娘
徹 (三八) 鉄男の兄・出稼ぎ労働者
安代 (三五) 徹の妻
一平 (十六) 最後の集団就職者
銀次 (三五) 不動産業者
茜 (三〇) クラブ「紫苑」のママ
天 (二五) ヤクザ者
谷 (三七) 悉皆屋
黒崎 (五〇) 巡查長
山田 (六〇) 染工房の隠居
真介 (五五) 百目木工房の親方
玉枝 (五二) 真介の妻・百目木アパートの大家
川瀬 (二六) 診療所所長
直樹 (三〇) ミュージシャン

◆舞台設定◆

下手玄関ドアから舞台半分程は土間になっていて、その真ん中に大きなテーブルと丸椅子。ドアの横にピンク電話が一台ある。その奥に神田川の土手に抜けるガラス戸があり、その左上部に「セツルメント診療所」の外看板が見える。土間の縁台に将棋盤が置いてある。

土間から一段高い板敷きになっていて、座布団に囲まれた大きな卓袱台がある。正面奥には「手描き友禅・百目木工房」の裏返し看板文字が描かれた4枚のガラス窓。その窓の袖壁にポーターブラジオと電気ポット、コーヒーセットが乗る茶箆筒、草臥れたギターケースが寄り掛かる。窓越しに川面に伸びる桜の枝が見える。その居間と低い衝立てで仕切られた三畳は、絵皿、筆立てが乗る友禅机が二つ設置され、壁際の棚に無地の反物、染色関係の資料、画集、雑誌などが詰まった部屋は、工房の手描き友禅制作室になっている。その右奥に母屋に通じる通路がある。

―一幕・一場― 春 「百目木工房」室内

真介が友禅機の型紙を前に座り、腕と指を屈伸して絵筆に皿の染料を含ませるが、手がブルブル震えて動かない。

真介 ううー、ううーつ。

と、呻いて筆を置き腕と指を屈伸。

同じ動作を何度も繰り返す。

ガラス窓が白みかかる。

真介、灯りを消し通路へ去る。

暗転。

それから三時間後。

ラジオから『万博音頭』が流れ、卓袱台の上でコーヒーのサイフォンが沸いている。

真介が窓際で詰め将棋を指し、直樹が上がり框でギターを爪弾いている。開けた窓から外を眺める玉枝の先に、樹齢を重ねた桜の根方で釣り糸を垂れる白衣の川瀬が見える。

そこへ、通路から『東京五輪音頭』を歌って茜が現れる。
乱れ髪にタオル巻いて寝起きっぱの様子だ。

茜 あーあーっ。(と、原稿用紙持って伸びをする)

玉枝 おや、お目覚めかい。

茜 春眠暁を覚えず。まだ眠いよー。

風子 茜さん。夕べも徹夜ですかあ？

茜 あたしは小説が命だからね…。

と、卓袱台の前にドサツと座る。

風子 はい。茜さん専用の焙煎コーヒー。

茜 うーん。いい香り。うわっ。苦ーッ！

風子 ふふっ。眼が覚めましたー？

茜 覚めたーっ！

風子 ある時は高級クラブのママ、またある時は女流作家、またある時はダンプの運転手。茜さんは片岡千恵蔵の名探偵。多羅緒伴内も顔負けの活躍ですね。

茜 根が貧乏性だから欲が深いのさ。

玉枝 過ぎる欲は身体に毒だよ。

茜 心配ご無用。肉体労働者は頑丈です！

直樹 茜さん、凄いい気合いですねー。

茜 おや、居たの。居候？

直樹 もー、茜さんは嫌みなんだからー。

茜 三年も留年して就職はどうしたのさ？

直樹 茜さん。俺の命はこれすよ。これーっ！

と、ジャジャーン。ギターを鳴らす。

茜 女将さん。新婚さんはまだあ？

玉枝 もう、着く時間だがねえ…。

直樹 新幹線で行きやあいいものを…。

風子 素敵じゃないですか。東名高速をハーレーで、万博見物を兼ねた新婚旅行なんて…。

玉枝 あたしや交通事故が心配だよ…。

直樹 夏ちゃん、何で所長じゃなく鈍臭い鉄男なんの？

茜 あれは、対立物の統一だね…。

直樹 えっ。対立物の統一って何んですか？

茜 二人の性格は真逆だろ。引かれる合う磁石と同じさ。

直樹 茜さん。哲学的ですね…。

茜 小説は対立と葛藤が生命線だからね。

直樹 後継者が居ない工房には、万々歳の結果がな。

山田 ヘドロ川で太公望とは、所長も酔狂だねえ…。

と、川瀬の側に着流し姿の山田が現れる。

川瀬 先日の大雨で錦鯉が現われたんですよ。

山田 ビニール袋の見間違いやねえのかい？

玉枝 それが親っさん。斑ら模様の鮮やかな大物よ。

山田 玉ちゃんも拝んだのかい？

玉枝 水嵩増した急流を艶姿を踊らせてね。

山田 ほー。それは剛毅だな…。

玉枝 昔は友禅流しに石斑魚や、ボラが戯れていたがねえ…。

山田 その清流も、高度経済成長の工業廃水、生活排水の垂れ流しで、スツカリ川が腐っちまったからな。

玉枝 掃すり蚊の大発生で、買物も出歩けやしないよ。

川瀬 排水を止めヘドロを処分しない限り、清流は戻りませんよ。

山田 生命力旺盛なザリガニが逃げ出したんだ。清流を取り戻すなんて夢のまた夢だよ。

川瀬 夢だからですよ。大雨でヘドロが流れて、鯉が遡上してくるんだから、「神田川を清流に！」の署名を集めて、友禅流しを取戻しましょうよ。

山田 噴射機の糊落としじゃ、友禅流しの風流はねえからな。俺の目の黒い内は無いだろうが、署名を集めてきたよ…。

と、山田が玉枝に署名の束を渡す。

玉枝 結構な数じゃないか？ 洗い張りの爺さんから、署名をとってくるなんて、流石は親っさんだねえ。

山田 亀の甲より年の功ってね…。

玉枝 (川瀬に) セツルメント診療所はどうだい？

川瀬 患者さんが熱心に集めています。都庁に陳情行くまでには、一万筆集めると張り切っていますよ。

山田 ほう。赤ひげ先生の威力は凄いいねえ。

玉枝 親っさん。コーヒー沸いてるよ。

山田 新弟子が来るんだろ？ その時にいただくよ。

と、山田が窓の外から姿を消す。

そこへ、ドッドッド、ドルルーン。

バイクのエンジン音が響いてくる。

茜 噂をすれば影じゃないかい？

川瀬の声 新婚さんのご帰還ですよー。

玉枝 やれやれ、無事に戻ってきたかい。

直樹 上手くいったかなあ？ 童貞と処女の新婚初夜…。

茜 馬鹿だねえ。そんな分けないだろう。

直樹 茜さん。何で分かるんですか？

茜 夏ちゃんは学生運動の闘士。鉄ちゃんは、染色の青年部を束ねる活動家。進歩的な二人が、古い考えに縛られている分けないだろう？

夏子 (現れて) 只今帰りましたー。

と、真っ赤なライダースーツの夏子が現れる。

フルフェースのメットを被り旅行鞆を抱えている。

風子 夏子先生。お帰りなさい。

玉枝 遅かったじゃないか。何かあったのかい？

夏子 ちよっとした、トラブルがあつてね…。

玉枝 何だい。何か事故かい？

川瀬 (土手口からきて) やあ。お帰りーい。

夏子 所長。またどぶ川で太公望ですか？

川瀬 今日は公害の定期検診日だからね。

風子 えっ。釣りが目的じゃないんですか？

川瀬 風ちゃん。釣り糸を垂れていると、公害で死んだ川虫や小魚の怨み節が聞こえるんだよ。

風子 えーっ。気持ち悪い。本当ですかあ？

茜 ははは、風ちゃん。所長の冗談だよー。

風子 そうですよー。

直樹 ねー、夏ちゃん。奴の乗り心地どうだった？

夏子 流石はハーレーよ。安定感が抜群だから、ノンストップで東名高速を走る気分は最高よ！

直樹 いや、その乗り心地じゃなくてー。

茜 馬鹿だねえ。何考えてる！

直樹 あ、痛てえーっ！

直樹、茜に脇肉を掴まれ悲鳴を上げる。

茜 それで万博見物はどうだったの？

夏子 どのパビリオンも凄いい賑わいよ。特にアメリカ館とソビエト館の。宇宙開発の展示は見応えあったわ。

風子 私も行ってみたいなー。

川瀬 行くといいさ。診療所なら心配いらないよ。

風子 准看学生の身分じゃ行けませんよ。

直樹 竜二と一緒にいったら？

風子 えっ。何で竜二さんですか？

直樹 彼奴、風ちゃんに「ほ」の字だろう。新幹線代くらいは出してくれるんじゃないの？

風子 もう直樹さんは。お金の問題じゃありません！

玉枝 夏子。ところで花婿はどうしたんだい？

夏子 サイドカーで休んでいます。

茜 何処か具合でも悪いのかい？

夏子 本人に聞いてください！

夏子、旅行鞆を持って通路へ去る。

茜 何だい。ありやあ？

竜二の声 おーい。しつかりしろよ！

鉄男の声 うお、おえーっ！

玄関から竜二に支えられて鉄男が現れる。

髪はボサボサで煤けた顔で、眼の回りだけが白い。

鉄男 (ふらついて) 只今戻りましたー。

真介 何だい。その煤けた面は？

直樹 ははは、まるでボルネオの眼鏡猿だよ。

玉枝 何があつたんだい？

鉄男 夏子に殺されかけたーっ！

鉄男、流し場で頭から水を被り顔を洗う。

そこへ、通路から夏子が現れる。

玉枝 夏子。婿殿に何をしたんだい？

夏子 身から出た錆よ。聞いてよ。パピリオンの行列に並ぶのが嫌

だって、万博会場で別行動だったのよ。

風子 えーっ。新婚旅行で別行動ですかあ？

鉄男 (手拭で顔を拭き) だってよ。アメリカ館を一つ観るの

に、長蛇の四時間待ちなんだぜ…。

直樹 くーっ。四時間待ちは地獄だな。

鉄男 だろう？ 万博見物なんて非人道的も甚だしいよ。

竜二 非人道的は別行動とったお前だろう？

鉄男 冗談じゃないよ。「太陽の塔」の広場で「あなた男でしょ！」

って、飛び蹴り喰わせやがってよ。

直樹 えっ、夏ちゃん。飛び蹴り披露したの！

鉄男 世界中の野次馬の前で、飛んだ恥さらしだよ。

夏子 鉄男さんが分からんちんだからよ！

鉄男 その腹いせに急発進に急ブレーキ。ダンプに幅寄せして、排

気ガスを真面によ。うぶぶっ。

と、土手口に走り大量にゲロを吐く。

夏子 男のくせに悲鳴をあげて、高速道路にゲロを撒いて。もう

情けなくて情けなくて…。

真介 サイドカーって奴は、手綱がねえ裸馬と同じだからな。

川瀬 親方もサイドカー乗ったんですか？

真介 軍隊時代に大陸の荒野でな。内蔵がデングリ変えてって、どう

にも制御ならんかったよ。

直樹 (ほくそ笑み) へっ、鉄男の野郎。いい気味だぜ…。

茜 嫌らしいねえ。何がそんなに嬉しいんだい？

直樹 だって茜さん。鉄男が…あはははー。

鉄男 (戻ってきて) 笑い事じゃないよ。検問所でダンプを待ち伏

せして、運転手に説教始めるてよー。

夏子 当たり前よ。あんな無謀運転は見逃せないわよ！

鉄男 夏子が煽って挑発するからだろう！

川瀬 それで鉄男君は、万博で何処を観たんだい？

夏子 千里ニュータウンから、梅田コマにタクシー飛ばして、『猿

の惑星』を観賞したんですって…。

玉枝 呆れたねえ。大阪まで行って『猿の惑星』のパピリオンかい。

川瀬 楽しみにしていた、月の石は観たのかい？

鉄男 グロッキーで、「月の石」も賽の河原の石もありませんよ。

もう二度と夏子のバイクには乗らない！

鉄男、ぱったりと上がり框に体を投げ出す。

真介 グロッキーは分かるが、新弟子を迎え行く時間じゃねえか？

鉄男 えーっ。今日だっけ？ (と、腕時計を見て) あーっ、夏子。

もうこんな時間だよー。

夏子 駅までお送りしましょうか？

鉄男 あー。安全運転でお願いしまーす。

直樹 かー。舌の根も乾かない内にこれだよ。

鉄男 煩いんだよ。無駄飯食いの居候は！ (と、玄関へ去る)

真介 これで鉄男は、夏子のサイドカー人生だな。

茜 あははは。親方、面白い。

玉枝 あたしやそれより、夏子のアメリカ留学で、二人が離れ離れになるのが心配だよ。

真介 戦場に行く分けじゃねえんだ。心配には及ばないよ。

川瀬 女将さん。女性も国際社会で活躍する時代ですよ。

玉枝 夏子が居なくて、診療所は大丈夫なのかい？

川瀬 風ちゃんがいるから、何とかありますよ…。

風子 そんな事を言つて。夏子先生が往診している、ドヤ街は所長が引き継ぐんですからね！

川瀬 まあ。ポチポチ引き継ぐさ…。

風子 そんな悠長では困ります。本腰をいれてやって下さい！

直樹 ははは、所長。気合い入れられてやんの。

玉枝 直樹も笑つてる場合じゃないだろ。三年も留年して、タベ良枝から電話があつたよ。

直樹 まだ仕送らないけど。何か言つてた？

玉枝 自分の食扶持は自分で稼げてさ。

直樹 えーっ。何だよそれよー。

茜 フーテンやめて働くんだね？

直樹 嫌だね。俺は生きたいように生きるのー。

玉枝 うちだつて唯飯食いの居候を、何時までも飼つておく分けに
いかないよ。そんなじゃ結婚も出来やしないよ。

直樹 (軽くギターを弾き)俺の伴侶はこいつすから！

玉枝 お前さんも何とか言つておくれよ。

真介 直樹から音楽取りあげたら、丘に上がった河童だ。もう暫く

様子を見てやれよ。

直樹 くー。さすが親方。痺れるねー。

風子 一緒にされた河童が可哀想よ。少しは鉄男さんと竜二さん
を、見習つたらどうなんです？

直樹 えっ。何で俺が奴らを見習うんだよ？

風子 鉄男さんは東北から出てきて、今は立派な手描き友禅作家。

竜二さんは腕のいい染め職人…。

竜二 いやあー。まだ俺は半人前だけだね…。

茜 歳は同じでも叩き上げ職人と、親の膳を齧つてギター三味の
風テンとじゃ、月とスツポンの違いだねえ。

直樹 俺は職人じゃなくアーティストなの。不器用で鈍臭い鉄男を見
習つたら、音楽の腕が鈍っちゃうよ。

真介 鉄男の不器用は資質だ。直樹も「努力」の二文字があると、
少しはましなメロディーが弾けるんだがな。

竜二 そうだぞ直樹。一人前なるには努力してだな…。

真介 竜二、お前もだ。油を売つてると親っさんの雷が落ちるぞ！

竜二 いけねえ。蒸しが上がる時間だ。(と、土手口へ走り)風ち
ゃん。またねー。

風子 (戸惑つて)あ。はーい？

直樹 竜二の野郎。風ちゃんに褒められて、舞い上がつてやんの。

風子 やめてください。そういう言い方は！

真介 所長。診療までに時間あるんだらう？

川瀬 久しぶりに王将線と行きますか。(と、将棋の駒を並べる)

黒崎の声 (外から)おーい。ここだここだ…。
徹の声 あー。めっかかりすがー。

と、玄関から黒崎と徹が現れる。

黒崎 どーも。駅前交番に配属になりました、巡査長の黒崎と言います。

玉枝 おや、ずいぶん老けた新顔だねえ。

黒崎 ははは、これはどーも手厳しいですな。

玉枝 それで、今日は挨拶回りかい？

黒崎 はい。初めての土地なもので、ブラブラ警邏してましたら、

こちらの方に道を尋ねられました…。

玉枝 それはご苦労だったねえ。それでお宅さんは？

徹 はえー。北原鉄男の兄ががす。

玉枝 えーつ。宮城県のかい？

徹 はーえ。鉄男、おるですか？

玉枝 生憎だったねえ。先ほど出かけたところだよ。

徹 ありゃあ、居ねえーすか。困ったなやあー。

玉枝 何か急ぎの用でもあるのかい？

徹 はあ…実は出稼ぎの仕事終わって、田舎さ土産物買うべと、

浅草ぶらついたたら、財布ば落どすつまって…。

玉枝 えーつ、幾ら入ってたんだい？

徹 出稼ぎで稼いだ二十万ほど…。

黒崎 交番には届けたのかい？

徹 びつくりすてまって、大工道具は質に入れて、此処さくろのがやつとだったもんで…。

真介 掏摸や置き引きが多いからな。災難と思って諦めるんだな。

玉枝 お前さん。そんな言い方は気の毒だよ。

真介 ま、鉄男が戻るまで待つんだな…。

徹 困ったなやあ。預けた大工道具出さねば、田舎に帰ることも出来ねちやー。

玉枝 大工道具は幾らで預けたんだい？

徹 (質札を出し) はあ。七千円ががす…。

玉枝 わざわざ尋ねて来たんだ…。(と、財布を出し) 鉄男が戻る前に大工道具を出しておいで。

徹 えやあ。他人様に迷惑ばかけらねです。

玉枝 困った時はお互い様さ。後の事は鉄男と相談するといいよ。

徹 はあ。んでは好意に甘えでちよつくら…。

と、珠代から札を押し頂いて玄関から走り去る。

真介 玉枝、あれは戻ってこねえぞ。

玉枝 何を言うのさ。鉄男のお兄さんだよ！

真介 血の繋がりなんぞ当てになるかい。

玉枝 何でそう言えるんだい？

真介 預けた物は直ぐに流れやしねえよ。

黒崎 あれ、本官の失態でしたかな？

玉枝 巡査長の責任じゃないさ。入れたてのコーヒーだよ。

と、玉枝が黒崎にコーヒーを進める。

黒崎 あ、これはどうも…。(と、上がり框に腰を下ろし) 交番で

飲むインスタント違っていい香りだ…。

玉枝 コーヒーでよけりや、巡回のときは寄りな。

黒崎 はい。土地勘が薄いので助かります。それにしてもこの界限は、染色業者が多いですなあ。

玉枝 染色は水が命だからね。東京友禅の先人達が清流を求めて、この神田川ぞいに集まったのさ。友禅流しに戯れる石斑魚やボラと遊ぶ子供の声が響いて、反物が屋根より高く靡いていたものさ…。

黒崎 それは壮観な眺めであらうな。 (と、窓越しに外を覗き) まだ川に降りられるんですね？

真介 本当は立入り禁止だがね…。

黒崎 降りて見ても、いいですか？

川瀬 落ちたらヘドロ塗れですよ。

黒崎、敬礼して土手口から出て行く。

玉枝、割烹着のポケットからメモ出す。

玉枝 そろそろ一番弟子がくる時間だね。直樹、この紙に書いてある買い物をして、寿司政に寄ってきておくれ。

直樹 えーっ。俺がですか？

玉枝 何だい。何か不都合でもあるのかい？

直樹 (茜と風子を見て) いま良いメロデー浮かんだところ…。

茜 何だい。その怪しい目付きは？

風子 私と茜さんは、家賃を納めている住人よ。

茜 直樹は、ただ飯食いの居候…。

直樹 分かりました分かりましたよ。あーあ、居候稼業は辛いねえ。

と、玉枝から書き付けを受けとり玄関に去る。

黒崎が窓の外から顔を覗かせる。

黒崎 あの一。釣り竿が揺れてますよ一。

川瀬 風ちゃん。錦鯉が掛かったぞ！

風子 またビニール袋じゃないんですかあ？

と、川瀬と風子が土手口から出て行く。

茜、窓から外の様子を眺める。

風子の声 うわー。大っきい！

黒崎の声 そんな強く上げちゃあ。

川瀬の声 あーっ。バラけちゃったよ！

茜 竜二には可哀想だけど、風ちゃんは所長にホの字だね。

玉枝 おや。二人はそんな関係かい？

茜 女将さんの目も節穴だねえ。風ちゃんの様子を見りゃあ分かるじゃないか一。(と、卓袱台に戻って座る)

そこへ、玄関から姉さん被りの安代が顔をだす。

背負子に大きな竹の籠を背負っている。

安代 あんの一、こんちは一。

玉枝 おや。新顔かい？

安代 は、はあ？

玉枝 今日、どんな野菜があるんだい？

安代 は、はえーっ？

玉枝 じれったいねえ。突っ立っていても売れないよ。籠を下ろして中を開けてごらん…。

と、安代に竹籠を降ろさせて中を覗く。

玉枝 何だい。何も売れてないじゃないか？

安代 これは売物でねーです…。

玉枝 ここは、一肌ぬぐとするかね。(と土手口に走り) ちよいとー。みんな上がって来ておくれよー。

と、声かけて上がり框に野菜を並べる。

風子 所長が無理に上げるからですよ。

川瀬 また、掛かるさ…。

黒崎 しかし、大きな緋鯉でしたな…。

と、三人が土手口からくる。

風子 どうしたんです。この野菜は？

玉枝 この人、初めての行商でまだ何も売れてないんだよ。千葉から一番電車できて、また持ち帰るんじゃないや気の毒だろう？ みんなで協力してやっておくれよ。

風子 昨日、買ったばかりで…。

玉枝 ケチなこと言わない。これは風ちゃんの分よ！

風子 えーっ、こんなにー。

玉枝 ぼけーっとしてないで巡査長も。

黒崎 いやー。本官は勤務中で…。

玉枝 四の五の言わない。はい、所長…。(と、薩摩芋を渡す)

川瀬 風ちゃん、今夜は焼き芋パーティーだな。

風子 またですかあ？

玉枝 これは我が家でいただいたと。茜、残りは「クラブ紫苑」で買い取っておくれよ…。

茜 えーっ。どうやって店に運ぶのよー。

玉枝 直樹に運ばせるよ。ビタミン不足の夜型サラリーマンに、たつぷりスパイス効かせた、野菜料理を食わせてやりな。さて、これで完売と…。(と、安代に) 代金はいかほどだい？

安代 (困って) えぐらもか神楽も。なじよすべや…。

鉄男 只今、戻りましたー。

と、玄関から鉄男が現れる。

茜 あー、お帰りー。

鉄男 どうしたの。こんなに野菜広げて？

安代 (涙目で) て、鉄男さーん！

鉄男 (安代をみて) あれっ。安代義姉さん！

安代 ああ、えがったあー。(と、鉄男に縋る)

鉄男 田舎で何かあったの？

安代 うちのスト(人)がら音沙汰ねすか？

鉄男 ないけど。兄貴がどうかしたの？

安代 出稼ぎ来たつきり、サツパリ連絡ねんだ。

鉄男 えっ。兄貴が出稼ぎ来てるの？

玉枝 鉄男。どういふことだい？

鉄男 あ、田舎の兄貴の…安代義姉さんです。

玉枝 何だい。千葉の行商じゃないのかい？

安代 はあ、野菜は手土産ですが…。

玉枝 それならそうと、早く言っておくれよ。

安代 えらぐ手順がえがったもんで…。

茜 女将さんは、早とちりなんだからー。

茜、卓袱台に戻って原稿チェックする。

真介 鉄男。兄貴ならここに来たぞ。

安代 えーっ。うちのストが現れただですか？

玉枝 そうなんだよ。出稼ぎで稼いだ財布落としたって、鉄男を訪ねてきたんだよ。

鉄男 それで兄貴はどこに？

玉枝 質に入れた大工道具を取りに行ったよ。

鉄男 女将さん。金を貸さなかったでしょうね？

真介 貸してたよー。一万円。

鉄男 義姉さん。またやられたよ…。

玉枝 何だい。何をやられたと言うのさ？

鉄男 兄貴のいつもの手なんですよ。

真介 あの顔は詐欺師の面構えだったな…。

玉枝 そんなお前さん。鉄男のお兄さんだよ。

安代 いえ、あのストはそういうストです。

玉枝 大丈夫だよ。戻るって約束したんだから…。

安代 それは間違ってもありえねえです。

黒崎 あの様子じゃ、近くの食堂にいるかもしれんな…。

安代 おらも連れでつてけらえん！

鉄男 義姉さん、野菜はどうするの…。

安代 みんなで分けでけらえん…。

と、黒崎と安代が玄関から走り去る。

真介 鉄男。一番弟子はどうしたんだ？

鉄男 いっけねえー。おい。中に入れ中に…。

一平 はえー。

と、玄関から学ラン姿の一平が現れる。

パンパンに膨らんだバッグを抱えている。

鉄男、一平を真介の前へ連れていく。

鉄男 親方、今日から世話になる迫一平です。

真介 遠い所をご苦労だったねえ。

玉枝 長旅で疲れたろう？

一平 始めて汽車に乗ったもんで眠れねがったす…。

風子 (鉄男に) 何て言ってるの？

鉄男 後で通訳するよ。一平、挨拶しろ挨拶…。

一平 宜すぐお願ひします…。

鉄男 あーあ。帽子とれ帽子…。(と、学帽を脱がす)

一平 (ペコリと頭を下げ) あ、これはどうもですがすたー。

風子 わー。可愛い。一休さんだあ!

茜 ははは。(と、「マルコメ味噌」の一節を歌う)

一平 ええ声すね。演歌歌手すか?

茜 ははは、面白い坊やだねえー。

山田 ほー、これが鉄男の一番弟子かい…。

と、土手口から山田と竜二が入ってくる。

竜二 ははは。(頭を撫でて) 引き染めの刷毛みてえだ。

鉄男 一平。世話なっている「山田染色」の親さんと…。

竜二 俺は一番弟子の竜二だ…。

山田 何が一番弟子だ。弟子にした覚えねえよ。

竜二 こういう師匠と弟子だ。宜しくな!

山田 (窓の外を指し) 所長。鯨でも掛かってんじゃねえか?

川瀬 おつ。風っちゃん。掛かったぞ! (と、土間に降りて) あ

ーっ。あつつーっ!

と、顔面を押さえ上がり框に仰向けになる。

指の間から血が滲んで流れる。

風子、柵から救急箱をとる。

玉枝 おや。また鼻血かい?

川瀬 肝心な時にこれです…。

風子 不用意に飛び出すからですよ!

竜二 所長。俺が釣りあげていい?

川瀬 ああ、頼む…。

鉄男 友禅のモデルに使うから傷つけるな。

竜二 おう。任せておきなつて!

と、竜二と一平が土口から出て行く。

真介と山田、鉄男が窓辺から眺める。

竜二の声 おおつ。こいつ強えぞ!

一平の声 ああ、無理くり上げでは駄目だー。

鉄男 あの錦鯉どこから来たんですかね?

真介 大雨で目白御殿の池から、逃げ出したんだろうよ。

山田 角さんに届けりや、「八海山」に在り付けるな?

真介 じゃじゃ馬の真紀子のお酌でかい?

山田 ははは。それはゾーツとしねーな。

直樹 只今戻りましたー。(と、玄関から現れる)

玉枝 あ、ご苦労さん。茜、卓袱台を片付けておくれ…。

茜 はいはい。

玉枝、直樹から料理を受取り、茜と風子に手伝わせて、卓

袱台と友禅机に料理を並べる。

一平の声 無理にあげたら駄目だあ。おらに変わらえん!

竜二の声 お、そーか。お前が上げしろ！

一平の声 こういう大物は歌コでも歌って、疲れるのを待ってか

ら、釣り上げるのがコツすよ。

竜二の声 じゃあ、何か歌えよ。

一平の声 歌つてもええねですか？

竜二の声 どうせ。ど田舎の民謡だろう？

一平、ずうずう弁で『潮来笠』を歌う。

直樹 何だい。ありやあ？

風子 鉄男さんの一番弟子よ。

鉄男 それが流行歌手なるなんて、途方もないこと言ってるんだよ。

直樹 えーっ。あのトロロ節でか？

茜 直樹には強力なライバル出現だねえ。

直樹 茜さん。あんなトロロ節と一緒にしないでよー。

真介 毒にも薬にもならねえ、直樹のフォークソングより、あの東

北訛りが強みじゃねえか？

鉄男 親方、友禅作家に仕込むんですから、変なことを吹き込まな

いで指導を頼みますよ。

真介 一平はお前の弟子だ。手前えで育てるんだな！

山田 何を言ってるんだ。師匠役だった銀次を破門して、鉄男には

苦労させたんだ。新弟子の面倒ぐらいみてやれよ…。

真介 親っさん。俺は終わった人間だよ…。

山田 ふん。何時まで意地けていりや気が済むんだい？

鉄男 親っさん。その話は…。

山田 いけねえ。焦らずに行くといいよ。

鉄男 はい。有り難うございます。

直樹 おっ。あの野郎。釣り上げやがったよ！

直樹、土手口から飛び出して行く。

玉枝と茜、風子が料理と飲み物を揃え飲食が整う。

玉枝 風ちゃん。上がるように呼んでおくれ…。

風子 はい。(窓から) 歓迎会を始めるわよー。

竜二の声 よく、釣り上げたな。

一平の声 村の巨大岩魚がこんなもんでね…。

と、窓の外に直樹と竜二、一平が姿を現す。

茜 (窓から覗き) うわっ。デカーッ！

風子 凄ーい。綺麗な模様してるー。

竜二 ほれよっ！(と、風子の鼻っ先に突き出す)

風子 うわっ。何すんのよーっ。

竜二 ははは、怒ると余計に可愛いよー。

風子 もう、竜二さんは意地悪いんだからー。

鉄男 竜二、金盃に葦簀を被せておいてよ。

竜二 一平。盃に水を張ってくれ…。

一平 はえー。(と、窓から姿を消す)

上がり框の川瀬がムックリ起き上がる。

夏子が通路から現れる。

夏子 所長。また鼻血？

川瀬 ああ、何とか治まったよ…。

風子 鼻血の原因は何ですか？

川瀬 体質だな…。

風子 ちゃんと検査したんですか？

茜 おや、仲のお宜しいことで…。

風子 (茜を睨み) その言い方は止めてください。夏子先生が留学

したら、所長が頑張らないと、診療所は回らないんです！

茜 (肩を竦め) おお、怖ーっ！

と、茜が飲み物をコップに注いで回る。

土手口から一平と直樹、竜二が現れる。

茜 はい。みんな席に着いてー。

竜二 はいはい。

直樹 おい、今日の主賓はお前だ…。

と、正面の真介の横に一平を座らせる。

それぞれが卓袱台を囲んで座る。

玉枝 揃ったかーい？

茜 (見回して) オッケーです。

玉枝 お前さん。始めておくれ…。

真介 (コップを手に立ち上がり) えー。では…鉄男の一番弟子に

迎えた迫一平君の歓迎と。新婚早々であるにも関わらず、医学研修に渡米する北原夏子。いや結婚しても百目木姓だった

な…ま、兎角二人の前途を祝して乾杯だ！

全員 カンパーイ！

と、全員が乾杯のコップを交わす。

風子 アメリカには、何時出発するんですか？

夏子 一週間後にはロサンゼルスよ。

玉枝 新婚早々、離れ離れなるのが心配だよ。

夏子 二年間の研修なんてあつという間よ。

竜二 折角のお祝いだ。直樹、何か歌えよ。

直樹 よっしゃー。では、いま大ヒット中の…。

と、ギターを爪引き『山谷ブルース』を歌う。

竜二 おいおい。祝いの歌じゃねーだろ？

直樹 今、俺が一番に痺れてる曲なの！

鉄男 フーテンが仕事の歌とはねえ？

直樹 鉄男は煩い。俺はアーチストなの！

茜 はい。手拍子、手拍子！

と、『山谷ブルース』の大合唱になる。

暗転。

―一幕・二場― その年の夏 「百目木工房」室内

鉄男が机で色を挿し、一平が隣で色作りする。

玉枝が反物を衣桁に掛けている。

そこへ、土手口から竜二が現れる。

竜二 睡蓮柄の染めが上がったぜー。

鉄男 (手を休めず) 鯉柄はどうした？

竜二 湯熨斗(ゆのし)に出してきた。(と、風呂敷を解いて) 見

ろよ。染めもいい出来だぜ…。

鉄男 谷さんが来るから、その時一緒に見よう。

竜二 そうだな。(鉄男の側に寄り) 赤い目して徹夜か？

鉄男 一に納期二に納期。谷さんにせっつかれてさ。

竜二 それにしても、見事な桜吹雪の模様だな。

鉄男 長寿の母親に、孝行息子が贈る特注品だよ。

竜二 この桜吹雪の装束で棺桶に入れりや、死出の旅も極楽浄土に

直行できるな…。

鉄男 縁起でもない事を言うなよ。

山田 ほー。家宝の虫干かい…。

山田、土手口から現れて玉枝の側へ。

山田 いつ眺めても凜としているねえ。

玉枝 残っているのはこれだけだよ…。

鉄男 (衣桁の前に行き) 俺には雲の上です。

竜二 この染めは師匠が？

山田 みりゃあ。分かるだろう！

竜二 へーっ。聞くだけ野暮でやしたー。

一平 (外から来て) この絵柄は親方が描いだすか？

山田 ああ、手描き友禅では伝説の逸品だ…。

一平 毎日将棋を指すてる親方が？

山田 東京美術学校を主席で出て、「全国染色展」で優勝。玉ちゃ

んと一緒になった頃は、天才友禅作家と持て囃されて、将来

を囑望されていたが、赤紙が来て出征してな…。

玉枝 結婚式挙げて五日目。真ともに顔を見る間もなかったよ。

山田 敗戦間近の中国戦線だった。ミゾレ混じりの雨が降る泥濘の

強行軍で、兵士達が飢えと寒さでバタバタと倒れてな…。

鉄男 おやさんも一緒だったんですか？

山田 出征から帰還するまで一緒よ…。そのとき親方が急に立ち上

がって、「こんな所で犬死すんじやねえ。生きて日本に帰る

んだ！」と空に向かって銃をぶっ放して…。淡谷のり子の『別

れのブルース』歌いだした。その歌声に倒れていた兵士たち

が、互いが互いを助け合って…何時の間にか『別れのブルー

ス』の大合唱よ…。

竜二 それで、部隊はどうなったんです？

山田 勿論、全員無事に帰還したさ…。

鉄男 さすが大日本帝国陸軍ですね。

山田 それが仲間の踏んだ地雷で、生死を彷徨う重傷を負った。手描き友禅職人には大事な、腕の筋をやられてなあ…。

真介 親っさん。くだらねえ昔話は止めねえか…。

と、通路から原稿の束を持った真介が現れる。

山田 おっと。拙いこと聞かれちまったな…。

真介 玉枝。そんなカビ臭い衣装は処分しちまえ！

鉄男 困りますよ。俺が目標の作品なんですから…。

真介 親っさんも、無駄話してねえで家に帰んな。

山田 娘夫婦の同居は息苦しくてな…。

真介 可愛い孫がいるじゃねえか。三匹も…。

山田 甲高い声が耳に障って叶わんのよ。

真介 暇なら親っさんも読むかい？

山田 ほー。茜ママの新作小説かい？

真介 『続・ドヤ街の夜明け』…。相変わらず文章はズダボロだが、ドヤの人々の描写がいいね。

山田 今流行のリアリズムって奴かい…。

真介と山田、将棋盤を退けて校正を始める。

玉枝 近ごろ青年部はどうなんだい？

鉄男 着物ブームの所為ですかね。手描かき友禅の工房にも、美大

出身者が増えましたね…。

玉枝 そういう時代なんだねえ。

鉄男 俺たち叩き上げ職人と違って、デッサン力があるから絵が生きている。これからの友禅は彼らが担うんですかね…。

竜二 十年選手が何を言うんだ。手描き友禅は親方から弟子と、継いできた伝統工芸だから、今の着物ブームがあるんだろう？

鉄男 確かにそうさ。でも鯉の写生で分かったんだ。模写から始めた俺らには、リアルで自由なアイディアがない…。それを青年部で話したら、みんな同じ悩みを抱えているんだ…。

玉枝 それで何か良い考えが出たのかい？

鉄男 デッサン教室を作る話になって、親方にデッサンの指導を頼めないかって事になったんです…。

竜二 どの工房も猫の手も借りたい忙しさを。手描き友禅の職人が、デッサンやってる暇あるのか？

鉄男 忙しい今だからこそさ…。

玉枝 (真介を見て) 駄目元で頼んでみなよ？

鉄男、真介と山田の前に進み出る。

鉄男 親方。一つお願いあるんですが…。

真介 何だい。改まって？

鉄男 デッサンの指導を、お願い出来ませんか？

真介 十年選手のお前が何の為のデッサンだ？

鉄男 近ごろ忙しいだけで、マンネリ状態なんです。

真介 今更、デッサンしても手遅れだよ。

山田 教えてやれよ。減るもんじゃあるめえし。

真介 何を言うんだ。親っさんまで！

山田 昔取った杵柄だ。持ち腐れじゃ勿体ねえよ。

真介 (腕を摩り) とつくの昔に腐れちまったよ！

玉枝 親っさん。この人に何を言っても無駄だよ。

真介 煩せえ。お前えは黙ってろ！

玉枝 あたしや悔しいったらないよ！

と、衣桁の反物を絡めとり奥へ去る。

鉄男、氣拙くスゴスゴと作業に戻る。

山田 近ごろの鉄男が描く友禅に、一番物足りねえと感じているの

は、お前えさんじゃねえのかい？

真介 (両手をぶらぶらし) 将棋の駒持つのが、やっとの手で何が

出来ると言うんだ？

山田 ふん。身体の中入ってるのは、破裂した爆弾の欠片だけかい。

捨てても捨てきれねえ、熱い手描き友禅の魂が宿ってるん

じゃねえのかい？

真介 そんな物は欠片も残っちゃいねえよ！

山田 竜二。帰るぞ！

と、山田が将棋盤の駒を崩して、竜二を従え土手口へ去る。

震える手で将棋盤に駒を並べ直す真介。

ある日の深夜。

真介が友禅机に座り画帳を睨んでいる。

徐に筆に色を含ませ画帳に筆を走らせる。

手の動きにぎこちなく危なっかしい筆捌きで、何度も何度

も同じ動作を繰り返す。白々と窓が白んでくる。

暗転。

——幕・三場——一九七一年 夏

外の桜から姦しい蟬時雨。

鉄男が友禅机で色を挿し一平が糊置き作業をしている。

山田が上がり框で画帳を眺める。

山田 この画帳は一平のかい？

一平 はあ。親方に色合わせを見て貰ってます。

山田 (画帳をめくり) この習作も一平のかい？

一平 それは親方の試し塗りです。

山田 ふーん。親方が試し塗りねえ…。

と、画帳を元に戻し将棋の駒を並べる。

そこへ、土手口から竜二が現れる。

竜二 御所車は描き上がったか？

鉄男 ああ、衣桁に掛かけてある…。

竜二 (衣桁の反物を眺めて) 糊置きは一平の仕事か？

一平 はい。拙いところありますか？

竜二 上手くなったなあ。これなら十分に通じるよ。

一平 えっ。ほんとうすか！

竜二 ああ、後は仕上げるスピードだな。

一平 はい。頑張りまーす！

そこへ、『長崎は今日も雨だった』茜が登場する。

浴衣姿で上がり框に座り胸に団扇で風を送る。

茜 銭湯は一番風呂に限るねえ。

山田 おっ。今日は一段と色っぽいねえ。

茜 パーツと、身体中の酒気が抜けて気持ちいいよ。

山田 酒は程々にしねえと、自慢の美肌が荒れるぞ。

茜 酒は小説書く潤滑油だよ！

真介 茜。その小説の校正終わったぜ…。

と、原稿用紙の束を手にした真介と玉枝が現れる。

茜 有り難う。読んだ感想はどー？

真介 うん。なかなか面白いねえ。

玉枝 近頃の茜が書く文章は読ませるよ。

茜 女将さんも読んでくれたの？

山田 誤字脱字は相変わらずだがね。

茜 編集長が面白ければいいって！

山田 ま、続ける事が肝心だからな。

茜 親方、校正の謝礼は何がいい？

真介 ほう。報酬をくれるのかい？

茜 親方の校正あつての小説だからねえ。

真介 鉄男。デッサンやると言ってたな？

鉄男 はい。やって貰えるんですか？

真介 茜、デッサンのモデルを頼めねーかい？

茜 えっ。モデルって…ヌードかい？

玉枝 お前さん。茜にヌードは無理だよ？

真介 持つて生まれた肉体美。社会貢献しないじゃ勿体なからう？

山田 成る程。モデルはビーナスに限るわな！

鉄男 茜さん。宜しくお願いします！

一平 (鉄男に) ヌードを描ぐんすか？

鉄男 馬鹿野郎。お前もお願ひするんだよ！

一平 茜さん。よろしくお願ひえますます！

と、茜の前に平身低頭する鉄男と一平。

茜、目を瞑り腕組みして思案する。

真介 ま、無理にとは言わねーがな？

茜 義理と人情を計りにかけりやゝ義理が重たい この世界！

(と、口ずさみ) 義理も恩もある「百目木」一家の頼みとあつちやあ。神田川の産湯に浸かつて磨いた、弁天の茜姐さんの鉄火肌あ。清水の舞台から飛降りる覚悟で！。晒さざーなるめえな！。(と、片肌脱いで框に足をかけ見栄をきる)

玉枝 いやーっ。日本一！

山田 江戸っ子だつてねえ。

茜 神田の生まれよーっ。

玉枝 女に惚れる。いい気っ風だよー。

茜 女将さん。空いてる部屋を借りるよ。

玉枝 ああ。内装して奇麗になってるよー。

茜 鉄ちゃん。行くよ！

と、洗面用具を抱えて通路へ去る。

玉枝 鉄男、茜の気が変わらない内だよ！

鉄男 一平。スケッチブックだ…。

一平 は、はい。

竜二 ああ、俺も参加してえなー。

山田 お前にそんな暇ねえよ。蒸しが上る時間だろう？

竜二 この猛暑に蒸し風呂地獄に、突き落とすのが俺の師匠。一平は優しい師匠でよかつたなあ。

山田 染め屋の命は色だ。お前は染出しに専念しろ！

竜二 へへっ。こりゃあ、茜ママのヌードがちらついて、仕事にならねーぞ…。

と、竜二がばやきながら土手口へ去る。

鉄男と一平、スケッチブックを持ち真介の前へ。

鉄男 親方、デッサンの心得は…。

真介 デッサンは対象物の観察が大事だ。今日の所は見た通りに、描いてみるんだな。

鉄男 あ、はい？

玉枝 あたしもモデルをやってみようかねえ。

全員 ええーっ！ (と、驚愕の表情で身を引く)

玉枝 何だい。そんな驚くことないだろ！

鉄男と一平、アタフタ通路へ去る。

真介と山田が将棋盤に駒を並べる。

窓の外に『神田川』を口ずさんで直樹が通る。

玉枝 直樹。何度言ったら分かるんだい！

直樹 えーっ。何のことよ？

玉枝 玄関は向こうだろ。表から出入りしとくれ！

直樹 だって遠回りじゃない？

玉枝 「通り抜け禁止！」の張り紙見えるだろ！

直樹 (真介に) 何を怒ってんの？

真介 さあな…。

直樹 ったく。分けが分かんねーよ。

と、土手口から現れて上がり框でギターを爪弾く。

外から轟しい蝉時雨と窓の風鈴が鳴る。

玄関の戸が開いて安代が現れる。

安代 こんにちはー。

玉枝 おや、鉄男の義姉さんじゃないか？

安代 その節は迷惑かけすた…。(と、玉枝に茶封筒を出す)

玉枝 これは何の真似だい？

安代 うづのストがお借りした…。

玉枝 あれは鉄男に返して貰ったよ。

安代 ありやー。そうでしたか…。

玉枝 それで亭主とは会えたのかい？

安代 さっぱりですが…。鉄男さんは？

玉枝 奥で絵のデッサンをしてるよ。

安代 はあ。デッサンですか？

玉枝 奥の部屋でやってるから、覗いて見るといいよ？

安代 ではちよつくら…。(と、遠慮げに通路に消える) 何だべー
っ。昼間つばらから女ごの裸眺めで、何すてんのーっ！

と、安代の素っ頓狂な声。

一平の耳を摘んで出てきて突き放す。

一平の声 うわっ。痛でーっ！

安代 年端えがね兄ちゃんには、女ゴの裸は目なく腐るだよー。

鉄男 (出て来て) 義姉さん。手描き友禅の修行なんだよ。

安代 何の修行が知らねが、教育的とは思えねな！

茜 何を揉めてるんだい。デッサンの途中だよ？

と、胸からバスタオル巻いた茜が出てくる。

山田 ほう。これはまた見事なビーナスだー。

安代 あんだ。人前で裸ば晒すておしよすぐねの？

茜 お前さんもやってみるか。案外、ヌードも悪くないよ。

(と、ポーズを作る)

安代 やんでがすやんでがす。なったらやんでがす！

茜 田舎じゃ夜這いの風習あると言うじゃないか？

安代 それとこれは別ですが！

茜 あんたも若いころ体験した口だろう？

安代 そりゃあ…。夜這いの一つもかけられね娘っ子は、行かず後
家の小姑なるでなえ…。くくくーっ。(と、含み笑いして)

中には山仕事の合間に、草むらで男を試す女ゴもえるです。

たまには野っ原でつのもええもんでがすよ…。

茜 ほーら、案のじゃないかー。

安代 ほんとだ。通ずるでがすなあ…。

鉄男 まったく。何が通じるんだよ！

安代 あれまー、おらどすた事がおしよすちゃあー。

と、首を竦めて恥じ入る安代。

直樹、ドサクサ紛れてタオルの裾から、茜の太腿を覗いて
頭を叩かれシユンとなる。

茜 馬鹿だねえ。お前もデッサンするかい？

直樹 ははは、おれは絵の趣味ねーから…。

茜 さあ、続きをやるよー。

一平 はい、はい！ (と、奥へ去る)

鉄男 今まで何処に居たの？

安代 妹のアパートに泊めで貰いました…。

鉄男 これからどうするの？

安代 (封筒を出し) 農作業は待ってくれね。一先ず田舎帰る…。

鉄男 良いから手土産でも買って…。兄貴は俺が探すから、元気でやっただって…。

安代 分がりました。(と、真介と玉枝に) どうもお騒がせすて申す分けねがすた…。

玉枝 ああ、気をつけて帰るんだよ。

鉄男 ちよつと、そこまで…。

安代 ここでえがす。アんだも身体に気つけられんよ…。

と、安代が鉄男を押し戻して玄関から去る。

鉄男、真介と玉枝に会釈して奥に引っ込む。

そこへ、土手口から風子が現れる。

風子 (元気なく) ただいまあ…。

直樹 どうしたのー。元気ねーな？

玉枝 所長と一緒にじゃないのかい？

風子 所長。入院しました…。

玉枝 例の鼻血でかい？

風子 高い熱が続いて倒れたんです。

玉枝 それは心配だねえ…。

風子 診療所は当分休診します…。

茜の声 (通路奥から) 痛たたーっ！ ちよつとタンマー。

風子 茜さん。どうしたんですか？

玉枝 デッサンのモデルしているんだよ。

風子 モデルですかー？ (と、風子が通路へ去る) えーっ。ヌー

ドモデルなのー。

茜の声 足攣ったーっ。風ちゃん。マッサージして！

風子の声 はい。二人は出て行って！

茜の声 痛たたー。そーつとだよ。ああ、そこそこ…。

画帳を抱えた鉄男と一平が出てくる。

直樹 どれ。(と、画帳を奪い) 何だこりゃあ？

一平 お、親方が一点に集中するって…。

直樹 尻だけデカく描きやがって…。

一平 いや、これはオッパイです。

直樹 ははは、親っさん。これがオッパイだって！

山田 おほほー。筋は悪かねえーなあ。

一平 (直樹に) ほらー、直樹さんはセンスねんですよ。

真介 (鉄男に) どうだ。初めてのデッサンは？

鉄男 はあ。思ったより難しいです。(と、画帳を真介へ)

真介 初めはこんなものさ。これから本腰を入れてみるんだな…。

鉄男 有り難うございます。

茜 出版社に行く時間に遅れちゃったよー。

と、外出着の茜と風子が通路から出てくる。

鉄男 茜さん。またモデルをお願いします。

茜 無理無理。二十分でこれじゃ身体がもたないよ。

真介 続けてりゃあ。モデルの身体に馴染んでくるさ。

山田 青年部の連中が親方の指導で、「デッサン教室」を開講するんだ。染色業界発展の為に、一肌脱いで欲しいねえ？

茜 えーっ。「デッサン教室」のモデル？

鉄男 若い友禅作家たちの要望なんです。

茜 うーむ。大勢だと燃えるねえ！

茜、原稿と洗面用具抱えて土手口へ去る。

風子 茜さんは、本当にバイタリティですね。

玉枝 戦災で何もかも失って、頑張るしかないのさ。

風子 小説の掲載は、何時始まるんですか？

玉枝 「新しい女性」の十月号から連載らしいよ。

風子 茜さんは現代女性の憧れの的ですね。

直樹 風ちゃんはミュージシャンだろう？

風子 えっ。何で私がミュージシャンよ？

玉枝 我が家では見当たらない人種だねえ？

直樹 くー。俺の市民権はまだまだ遠いねえ…。

と、ギター爪弾いて誤魔化する。

鉄男が友禅机で仕事を始める。

その側で色合わせに余念ない一平。

真介と山田が将棋の駒を動かす。

玉枝と風子、卓袱台でコーヒーを沸かす。

玄関からズダ袋下げた私服姿の黒崎が現れる。

黒崎 先日はどうもでした…。

玉枝 今日は非番かい？

黒崎 山田さんに『従軍記』お借りしたのでお返しに…。

と、ズダ袋から小冊子を出して山田の前へ。

真介 何だい。戦友会の同人誌じゃねえか？

黒崎 親方の従軍体験記を是非と、山田さんに勧められました…。

真介 (山田に) また余計なことをしやがって…。

黒崎 本官も軍隊では散々でしたから、親方の体験記には身につま

されました。(と、カップ酒を二つ出す) これはお借りした

本のお礼という事で…。

真介 ふーん。お巡りにしちや気が利くじゃねえか。

山田 保安官殿、勝負の続きを頼むよ。

黒崎 えっ。本官が将棋ですか？

山田 保育園にガキを迎え行く時間だな…。

山田、黒崎に将棋を押し付け土手口へ去る。

真介 平和だとお巡りも気楽だねえ。

黒崎 暇に任せて元赤線地帯をへ巡って来ました。

真介 「売春禁止法」の発布以来、灯が消えて寂しいもんだらう。

黒崎 昔、北国で起きた「草刈り鎌殺人事件」の犯人に似た男を、

新宿2丁目で見かけたという情報がありましたね…。

真介 ふーん。近頃の巡査は探偵もやるのかい？

黒崎 刑事になり損ねた、名残りですかなあ…。

真介 犯人を捕まえて退職の花道ってわけかい？

黒崎 本官も歳ですな。目鼻の利が悪く、夢見もよくありません。

真介 戦場で生地獄を見てきたんだ。夢見がいい分けねえさ。

黒崎 それが親方。犯人を追い詰めて、手錠掛ける段になると、するりと躲わされて、逃げられる夢なんですよ。

真介 ははは、人生なんてへボ将棋と同じよ？

黒崎 それが不思議なことに。ひょいっと振りむいた面が、自分と同じ面してるんですよ…。

真介 巡査長の闇も深いねえ。王手と！

黒崎 あららー。本官も年貢の納め時ですな…。

一平 色合わせは難すなあ…。

と、一平がムズムズして体を揺する。

突然、『おら東京さ行くだ』を歌いだす。

鉄男 気が散るからトロロ節はやめろ！

一平 トロロ節はすどいなあ。

直樹 一平。そのド訛りで歌手は無理だぞ。

一平 はあ。なすてですか？

直樹 「発音正しく雀の巢」言ってみな…。

一平 はちおんただすぐ、しじめのしっ！

直樹 その発音で通じると思うか？

風子 サ行とタ行が問題ねえ。

朴の声 (外から) くずーい。くずやーおはらーい。

直樹 聞いたろ？ あの発音だよ。

一平 えや。訛りはおらの個性す。

直樹 村で通じてても東京じゃ笑いやだよ。

一平 歌手なつて田舎さ錦飾るつす！

風子 まあ。力強い立派な決意なこと！

鉄男 何やつてるんだ？ ドンブリ一杯に作つて…。

一平 水を足すど薄ぐなり、色を足すど濃ぐなつて…。

鉄男 馬鹿野郎。集中力が足りないからだ。手描き友禅で色合わせ

が一番難しいんだ。始めから気合入れて作り直せ！

一平 へえーい。(と、ドンブリ持ち通路奥へ)

そこへ、『イムジン河』を歌ってヨンが現れる。

直樹 おつ。ヨンが来たな…。

風子 ヨンちゃん。オモニの具合どう？

ヨン 咳が止まらなくて寝てるー。

風子 薬出すから、後で診療所に寄りなさい。

玉枝 ヨン。アボジを呼んでおくれー。

ヨン アボジー。女将さんが呼んでるよー。

朴の声 おー。いま行くよー。

風子 ヨンちゃん。『イムジン河』を歌つてよ。

直樹 ここじゃ仕事の邪魔だ。外でやろう…。

ヨン うん。いいよー。

と、直樹と風子、ヨンが土手口から去る。

朴が窓越しに左頬が傷跡で歪んだ顔を現す。

朴 毎度ー。お世話になってます。

玉枝 ああ、朴さん。外にガラクタが積んであるだろう？

朴 ありゃー。結構な量でやすな…。

玉枝 先日の大雨で流れ着いたのさ。持っていつておくれ。

朴 へーい。有り難うござーやす。

黒崎 王手。飛車取りつと！

真介 うむ。その手があつたかい！

朴 (窓から将棋盤を覗き) 七、三の桂成りで逆大手…。

黒崎 な、何だいお前さんは？ (と、朴を見上げる)

朴 あ、これは飛んだご無礼を…。

黒崎 いい面構えしてるねえ。一度お相手願いたいねえ。

朴 いえ。あつしは岡目八目で…。 (と、首を引っ込める)

黒崎 今の男は何者です？

真介 ドヤ街に住んでる朝鮮人の屑屋だ。

黒崎 ふーん。朝鮮人の屑屋ですか…。

直樹のギターでヨンの歌声が聞こえる。

朴の声 ヨン。その歌はやめるんだ！

ヨンの声 オモニが教えてくれた歌だよー。

朴の声 だからやめるんだ！

玉枝 何でだね。いい歌じゃないか？

朴の声 ヨンが悪ガキ共に苛められやすんで。

真介 王手、金取り！

黒崎 あれー。今度は本官が投了だあ。

真介 何だい。急に手抜きなんかして？

黒崎 いえ、実力の違いですよ。今日はここらで…。 (と、下駄を

突っかけて) 近ごろ空き巣が多いですから、戸締まりはくれ

ぐれも用心してください…。 (と、土手口から去る)

真介 急に変な野郎だぜ…。 (と、将棋の駒を崩す)

そこへ、玄関からスーツ姿の銀次が現れる。

杖で身体を支えて紙バックを抱えている。

銀次 親方、女将さん。ご無沙汰しております！

玉枝 おや。銀次じゃないか？

真介 体の方はすっかりいいのかい？

銀次 (杖を示し) 何とか三本目の足を頼りに…。

玉枝 後遺症が残ったんだねえ。

茜 行ってきまーす。

と、茶封筒抱えた茜が窓の外を走る。

玉枝 ちよつと待ちなーっ！

茜 (土手口から顔を出す) 女将さん。何か用？

玉枝 (銀次を顎でしゃくる)

茜 ぎ、銀ちゃん！

銀次 おつ。茜かー？

茜 何処をほっつき歩いてたんだよーっ！

銀次 どこでもねーよ。

茜 (銀次に抱きつき) 会いたかったよーっ！

銀次 何だ何だ。みっともねえー。

玉枝 茜はずーっと、銀次を待っていたんだよ。

一平 (鉄男に) 誰すか？

鉄男 (親指立て) 茜さんのこれだ…。

一平 はー。格好ええすねえー。

鉄男 あつ、またー。そんなに作つて。

一平 ああ、やり直しまーす。(と、ドンブリを持って奥へ)

茜 出版社に行くから、後で電話して！

と、名刺を渡して土手口へ走り去る。

銀次 (玉枝に) 出版社って？

玉枝 茜。小説を書いているんだよ。

銀次 えっ。読み書きも満足にできねえ茜が？

鉄男 今や売れっ子の女流作家ですよ。

銀次 (名刺を眺め) で、このクラブ「紫苑」てのは？

玉枝 銀座の高級クラブ。「紫苑」のママが本業さ。

銀次 あの泥地蔵の茜がねえ…。

玉枝 驚くのも無理ないさ。お前が起こした傷害事件を、「銀ちゃんを刑務所に送つたのはあたしの所為だ」と言つて、下の川に飛び込んで大泣きに泣いてさ…。(と、目頭を押さえる)

銀次 ……。

玉枝 それからだよ。何かに取り憑かれたように、昼はパン工場

目一杯働いて、夜は定時制に通つて猛烈に勉強して、「一念は岩をも通す」とは茜のときさ。銀次には勿体ないほど良い女に生れ変わったよ…。

銀次 (頭を掻き) どうもご迷惑かけたようで…。

玉枝 それでお前の用事は何だい？

銀次 この度、不動産業を始めまして、そのご挨拶に…。

と、真介と鉄男、玉枝に名刺を配る。

玉枝の前に高級洋酒のボトルを置く。

真介 ふーん。駅前の新築ビルじゃねえか…。

玉枝 大丈夫なのかい。家賃が高いんだろう？

銀次 バックに強力な後援者が付いてますんで…。

玉枝 ヤクザじゃないだろうね？

銀次 歴とした一部上場企業の、大手ゼネコンですよ。

真介 そりゃあ。ヤクザより質が悪いな。

銀次 心配には及びませんよ。それで開業の契約第一号は、「百目木アパート」の管理をお願いに上がりました…。

玉枝 こんなポロアパートでいいのかい？

銀次 はい。此処が俺の原点ですから…。

鉄男 銀次さん。もう友禪やらないんですか？

銀次 友禪に泥を塗つた俺に資格はないよ。

玉枝 罪は償つたんだ。戻ってくればいいじゃないか？

真介 玉枝。世間は変わったんだ。銀次の好きにしてやれ。

玉枝 腕は一流なのに勿体ないねえ。(と、契約の書類に目を通し)

ここに名前書いて判を押せば良いのかい？

銀次 はい。それと割印もお願いします。

玉枝、卓袱台で書類に署名し捺印を押す。

銀次、新宿に都庁が移転する関係で、この一帯の土地もぐーん値上

がりして、財産価値が上がりましたね…。

真介 ふーん。この川つ縁の腐れ地べたがかい？

銀次 新宿副都心の開発計画は、広い土地の確保が優先ですから、

地盤の強弱はあまり関係ありませんよ…。

真介 その大開発で街がどう化けるんだい？

銀次 五十階から七十階の、超高層ビル群の街ですね…。

玉枝 という事は、この一帯も対象なのかい？

銀次 新宿副都心の再開発計画は、都庁の移転だけでなく、東京そ

のものを大改造する、大事業ですからね…。

玉枝 東京大改造計画はいいが、「暴れ川対策」の改修の陳情は、

梨の礫のままだけど、一体どうなってるんだい？

銀次 俺は都庁の人間じゃないんで何とも…。でも抜本的に街を造り変る分けですから、暴れ川対策もいいですが、高騰した土地を売って、環境いい所に移るのが得策だと思いますがね…。

玉枝 (書類を渡し) 銀次。本筋は立退き移転の話かい？

銀次 これはどうも余計な事を…今日のところはこれで…。

と、極まりの悪い笑い残して玄関から去る。

真介 銀次の野郎。副都心計画の先兵だな？

玉枝 久し振りに現れたらキナ臭い話だよ…。

真介 いずれは立退きで騒がしくなるな。

玉枝 ああ、嫌だ嫌だ。(と、ポトルを持って奥に去る)

竜二の声 谷さんは羽振りいいですねえ。

谷の声 竜ちゃん。世の中は頭の働かせ次第よ…。

と、派手な背広姿の谷と竜二が現れる。

竜二、風呂敷包みを抱えている。

谷 まいどー。ご無沙汰です。

鉄男 谷さん。いらっしやい！

谷 湯熨斗屋で竜ちゃんと会ってね…。

鉄男 竜二、その反物は谷さんに見て貰おうよ。

竜二 それはいいな。(と、風呂敷を解き谷に反物を)

谷 うむ。どれどれ…。

と、反物を広げて舐めるように見る。

鉄男と竜二、息を詰めて谷の反応を見る。

谷 申し分ない仕上がりの。一段と腕を上げたねえ。

竜二 (胸を撫で下ろし) ああ、良かったー。

鉄男 谷さんの目は厳しいから、緊張しましたよ。

谷 二人のコンビの成果だね。この調子で素敵な手描き友禅を、

ジャンジャン創ってちよーだい！

鉄男 よーし。谷さんのお墨付きに勇氣百倍だ。描いて描いて描きまくりますよーっ！

谷 その意気で宜しく頼むよー。(と、真介の側に移動) ところで親方、一つご相談なんですがねえ。

真介 何だい。面倒な話はお免だよ？

谷 いえいえ話はいたってシンプルでやす。今や一億総中流の成長経済の真つただ中。戦後の第二次着物ブーム到来で、高価な着物ほど売れる時代でやす。

真介 ふーん。大繁盛で結構じゃねーか。

谷 特に「百目木工房」の手書き友禅は評判が高い。

真介 その恩恵が薄いのは不思議だがねえ。

谷 需要と供給のバランスですね。仕事が丁寧で評判なのは嬉しいでやすが(と、伝票を繰り)注文が滞っていやすてね…。

真介 仕方なかるう。職人の手仕事には限りがあるんだ。

谷 親方、その事なんですがねえ…。

真介 何か上手い方法があるのかい？

谷 名前を明かす訳にいきませんがね。大手の工房が美大生をアルバイトに雇って、手書き友禅を分業で仕上げ、大変な効果あげているんですよ。

真介 どの工房か知らんが、西の友禅と違って、デザインから色挿しまで、一人の職人が仕上げるのが東京友禅だ。そんなやり方には感心しねえな…。

鉄男 手書き友禅をどう分業するんですか？

谷 朱色を挿す者は朱色、藍を挿す者は藍といった要領だね…。

机を並べて一斉に色を挿す、工場の眺めは壯観だよ。

鉄男 職人たちは納得してるんですか？

谷 職人氣質も一樣じゃないからね。効率が上がれば収入が増える。みんな金が欲しいのさ…。

真介 その友禅と同じ値段で売るんですか？

谷 にか中流のご婦人方には、着物の善し悪しが分らない。値段が高けりや高級品と信じてるのさ。

真介 客にバレたらどうするんです？

谷 バレやしないさ。ご婦人方は着物を持つのがステータスだ。袖も通さずに「筆筒の肥」で満足なんだよ。

鉄男 谷さんは。心傷まないんですか？

谷 時代だからね。売れる時に売りまくる。一に効率二に効率…客のニーズに応えるのが最優先。「百目木工房」さんも品不足解消に、協力頂けると嬉しいんですがねえ。

真介 うちの工房には縁のない話だね。パチッ！

鉄男 親方、分業でも何でもやって、稼いだらどうですか？

真介 だってよ。アルバイトが描いた作品と、同じ値段と聞いちゃあ。馬鹿らしいじゃないか？

真介 竜二、金を稼ぐなら染色の仕事は、手間暇が掛かる割に実入りが少なく、間尺に見合う仕事じゃねえ。辛くても苦しくても五年、十年と修行して身も心も染色に染まっていくな。それが職仕事の生き様つてもものだ…。

鉄男 ですが、苦勞の修行が報われないじゃあ…。

真介 その苦しく長い修行から生まれた、良いものだけが残る。今

の着物ブームなんざすぐ廃れる。そんな工房は生き残りやしないよ。谷さん。内は今のやり方を変える気はねえよ！

谷 いえ、親方。今の話は例え話でやすて…。

真介 例え話でも金儲けを吹聴して、若い職人の心を乱すのは、業界の人間として、褒められたやり方じゃねえな！

と、将棋盤の駒を崩して通路へ去る。

谷 いけねーや。親方を怒らせちゃったよー。

鉄男 今の話は一番嫌いますからね。

谷 俺も焦っているのかな。何処も品不足でさ…。

竜介 好景気に便乗して、問屋やデパートがユーザーを煽って、作った着物ブーム。職人の身入りには関係がない…。

谷 そこだよ竜ちゃん。二人は将来独立するんだろう？

鉄男 独立なんて。今は腕を磨くのに精一杯ですよ。

谷 独立するには資金だよ。二人はいまどの位貰ってるの？

竜二 俺らは三食付きの住み込みだから…。

谷 今、十年選手の相場はこれよ！（と、両手の指を広げる）

竜二 えーっ。十万円も？

谷 腕前とキャリアで差はあるがね。もっと上の金額を出す工房もあるよ。資金を蓄えるなら他の工房に移るのも手よ。

鉄男 悉皆屋さんが、職人の斡旋もやるんですか？

谷 何処も職人不足だろ。職人の引き抜き合いが激しいのよ。

鉄男 俺たちには関係ないから。他を当たってください！

谷 そうか、鉄ちゃんは「百目木工房」継ぐんだね…。

鉄男 そんな事は決まっていますよ！

谷 竜ちゃんはどうなんだい？

竜二 谷さん。金は欲しいが戦災孤児の俺を、一端の染め職人に育ててくれた親っさんを裏切れませんよ。

谷 この着物ブームも何時まで続くか。金稼ぐなら今だがねえ。

鉄男 谷さん。いい加減怒りますよ！

谷 いや。俺は二人の将来を考えてだな…。

鉄男 俺らの心配は結構ですから、今日はお帰りください！

谷 そう怒りなさんな。業界の現状と世間話だよ。ははは、どうも。お呼びじゃない？ こりやまた失礼…。

と、愛想を振りまいて玄関から去る谷。

鉄男 まったく、谷さんという人は…。

竜二 結局、身を粉にして働く職人より、口八丁手八丁の悉皆屋が、儲かる仕組みってことだ…。

鉄男 物作りとはそういうものさ。

竜二 分かっちゃあいるが遣り切れねえよ…。

と、竜二が土手口から出て行く。

鉄男、突っ立ったまま竜二を見送る。

鉄男 金か…有るに越した事ないんだよな…。

と、呟き友禅机に座り伸子に色を挿す。

真剣に色作りに専念する一平。
暗転。

―一幕・四場― 夏の終わり

外から、直樹が爪弾くギターと蝉の声。
茜が卓袱台で原稿用紙に赤を入れている。
一平が友禪机で色を挿している。
衣桁に掛けたを眺める玉枝、鉄男と竜二。
真介と朴が将棋を指している。

真介 穴熊とはよく囲ったねえ。
朴 土竜暮らして、お天道様が苦手なもので…。
真介 「能ある鷹は爪を隠す」。朴さんはどれだけの爪を、隠し持
っているんだい？
朴 あっしのは害のねえ逆さ爪。親方の前から後からの、雪隠
攻めで往生してやすよー。
山田 ほう。今日は朴さんが犠牲者かい？

と、土手口から山田が現れる。

真介 親つさんが姿見せねえからよ。
山田 ガキのところに患った、帯状疱疹が疼いてな。

真介 神経痛は我慢できねえからな。案配はどうなんだい？
山田 縁が切れねえで仲良くしてるよ…。（と、一平の側へ移動し）
ほう。いよいよ色挿しかい？
一平 はあ。まだ色作りの修行段階で…。
山田 「石の上にも三年」。手描き友禪は色が命だ。一人前になり
や、食いつばぐれねえんだ。しっかりと修行することだ…。
一平 へい。有り難たーす。
竜二 （鉄男に）どうだ。染めはバッチリだろう？
鉄男 ああ、俺の染めは竜二でないとな。
山田 （寄ってきて）ほうほうほう。
玉枝 いい色が出ているだろう？
山田 ああ、面白え趣向だ。親方、ちよつときてみなよ。
真介 何だい。いい勝負の最中に…。

と、真介と朴が衣桁の前にくる。

朴 こりゃあ凄えー。どっちが本物か分からねーや。
真介 鉄男。これは何の趣向だ？
鉄男 非売品だからと断ったんですが、親方の描いた柄の着物が、
欲しいと客から立っての注文で…。
真介 それでこれを納品するのか？
鉄男 はあ。これから仕立てに回そうかと…。
真介 お前は何の為に友禪を描いてるんだ！
鉄男 一日も早く親方を超えたいからです…。
真介 馬鹿野郎ーっ。（と、衣桁の反物を手繰り取る）

玉枝 お前さん。何するんだい！

真介 こんなカビ臭いモノを模写しやがって！

鉄男 あつ、親方ーっ！

玉枝 お前さん。いけないよーっ！

と、反物を丸めて窓から放り投げる。

一平が土手口から飛び出して行く。

玉枝 何てことをするんだい！

鉄男 親方、模写のどこが駄目なんですか！

真介 着物は飾って眺める美術品じゃねえ。袖を通す人間が主人公の物だ。客に媚売るお仕着せは描き手の驕りだよ。

鉄男 だって親方を超えない限り、先に進めませんよ！

真介 だからお前は駄目なんだ！

鉄男 俺の何処が駄目なんですか！

真介 伝統工芸は伝統を受け継ぎ、時代と共に伝統を生み出して、次の世代に繋いでいくモノだ。お前が俺の技に拘ってる限り、俺を超えられやしねえよ！

鉄男 じゃあ、どうすれというんです！

真介 描き手の思惑や流行物の着物は、直ぐに色褪せて廃れる。手

描き友禅は無心で描いて描いて、描き続けた先に新しい世界が観えてくる。その良いモノだけが五十年、百年も耐えられる生命を宿すんだ…。

鉄男 ふう…。(と、座り込む)

真介 親っさん。折角染めてもらったが、内の工房からこんな物は

納められねーよ。(と、朴と将棋に戻る)

山田 (竜二の肩を叩き) だとよ！

一平 (土手口からきて) ヘドロ塗れすよ！

玉枝 「洗い張り」に出してもどーかねえ…。

鉄男 女将さん。納期の延長をお願いします。

竜二 おい。納期延してどうすんだよ。

山田 描き上げ友禅で仕上げてみるさ。

鉄男 俺には描き上げ友禅は無理です。

山田 良い機会さ。躊躇ってちゃ壁は超えられねえよ。

一平 (玉枝に) 描き上げ友禅ってなんすか？

玉枝 糸目を置かずに描き上げるのさ…。

一平 えっ。失敗できないすね？

山田 友禅作家は誰でも通る道さ…。

と、言い残して真介と朴の側へ移動する。

竜二 おい。描き上げ友禅描いたことあるのか？

鉄男 無い。無いがやるしかないだろう。

竜二 お前なら出来るさ…。

鉄男 一平、徹夜が続くぞ…。

竜二 染めは任せとけ！

と、竜二が土手口から出て行く。

鉄男、机の前に座り頭のタオルを締め直す。

真剣な顔で色作りに専念する一平。

山田 親方も焚き付けるのが上手いねえ。

真介 ふん。駄目な物は駄目と言ったままでよ！

山田 あれは鉄男への嫉妬じゃねーのい？

真介 親っさん。鉄男はとつくに俺を超えてるよ。

山田 ふん。見えてるじゃねーか。そこまで見えてるのに、手前の事になると何で目を瞑るんだい？

真介 親っさん。何が言いてえんだ？

山田 俺の目は節穴じゃねえぜ。手の震えが消えてるよ？

真介 ふん。知った風な事を言いやがる。玉枝、親っさんが熱発の

ようだ。氷嚢で頭を冷やしてやれ！

玉枝 親っさん。夏風邪かい？

山田 ははは、猛暑を油断したかな…。

徹 て、鉄男ーっ。助けてくれーっ！

と、玄関から血相変えた徹が現れる。

鉄男 あ、兄貴ーっ？

徹 頼む金貸すてくれ！

鉄男 何言ってるんだ。それどころじゃないよ！

徹 わがってる。お前の言い事わがってる。二万でええ二万

で…。月末には前の分も耳揃えで返す。この通りだ何も言わ

ねで金を貸すてくれ！ (と、土間に土下座する)

鉄男 土下座しても兄貴に貸す金はない！

天の声 (外から) おーい。まだかあ？

徹 (外に向かい) はーい。ただいまー。鉄男、人待だせでるん

だ。頼む二万…えや一万でええ…。

鉄男 兄貴。いい加減にしるよ！

徹 頼む。あるだけでええ！ (鉄男のポケットを探る)

天 おーい。いつまで待たせるんだ…。

と、玄関からダボシャツ姿の天が現れる。

両腕から刺青を覗かせて、チャラツチャラツ！

雪駄鳴らして威嚇して歩き回る。

天 おう。此奴の弟というのはお前か？

鉄男 そうですが。兄が何か？

天 何かじゃねえ。女房に手を出しやがったのよ。

徹 ち、違う違うよ。女が勝手に手を握って…。

天 ばっくれんじゃねえよ。ガタガタ抜かしやがると、(と、七

首をひけらかす) 落とし前つけて貰うぜ！

徹 (怯えて) 鉄男、何とかしてくれーっ！

天 (鉄男の反物を七首の峰で叩き) 現金がねえなら、この反物

を預からして貰おうか？

鉄男 (反物を引つ込め) 駄目ですよ。商品なんだから！

朴 面白いのが来やしたねえ。

真介 朴さん。勝負を急ごうかい。(パチリ)

朴 おっ、歩成りで角取りでやすか…。

玉枝 (前に進み出て) 鉄男。根性が腐った兄さんの、腕の一本も斬り落として貰ったらどうだい？

徹　そ、そんな殺生な！。

玉枝　やいチンピラ。早いとこケリつけて帰りな！

天　何だと婆あ！

と、七首を板の間に突き立てる天。

玉枝　ふん。そんなナマクラで脅すても無駄だよ！

天　へっ。気が強え婆あだぜ！

玉枝　挨拶もできないチンピラが、意気がるんじゃないよ。下のへドロ川で面を洗って出直してきな！

天　（七首に手をかけ）ふん。どうでも血を見てえようだな？

真介　若いの。勝負に集中できねえから静かにしろや。

天　（真介に向き直り）ん。爺さん。静かにしろだあ？

朴　まあまあ、今が勝負の山場なんで…。

天　ふん。へぼ将棋の何処が山場なんだ？

朴　まあまあ。一―二手で終わりますよ！。

茜　おや！。お前は…。

と、土手口から団扇を持った茜が現れる。

茜　ダボ沙魚の天じゃないかい？

天　だ、誰でえ。名前を呼び捨てにしやがって…。

茜　ははは、やっぱり天だ！。

天　こ、これは茜の姐御！。

茜　随分、元気そうじゃないか？

天　へい。何でこんな所に姐御が？

茜　戦災で親を亡くして、この女将さんに救われたのさ。言わば此処はあたしの生れ故郷だよ。

天　（辺りを見回し）へっ。姐御の生れ故郷？

茜　（団扇で七首を叩き）七首ひけらかして何の真似だい？

天　へい。ちよっとした訳ありで…。

茜　どういう訳ありだい？　まさか美人局じゃないだろうね？

天　そ、そんな。飛んでもねえ…。（と、後退る）

茜　じゃあ。この七首をどう説明するんだい！　（と、団扇で天の頭をバシッと叩く）

天　面目ねえ。出直してめえりやす。（と、玄関へ向かう）

茜　待ちな！。銀ちゃんが知ったら、只じゃすまないよ！

天　えっ、銀次兄いが戻ってるでんすか？

茜　堅気に生まれ変わって、不動産会社の社長してるよ。

天　えーっ。銀次兄いが社長ですか…。

と、腹巻の晒を破り小指に巻きつける。

小指を上がり框に据えて七首を逆手に持つ。

玉枝　ちよいと。何しようってんだい！

天　不始末の落とし前を、付けさせていただきやす。

玉枝　ここは神聖な友禅の工房だ。ヤクザ者の血で汚すのは御法度だよ。やるなら外の川つぶちでやっておくれ！

真介　まあまあ、玉枝…。

と、薄汚れた洗濯板を天の前に据える。

真介 わしら堅気にあ、滅多にお目にかかれねえ、ヤクザの儀式だ。

トツクリと見物させて貰おうじゃねえか…。

天 そ、そんなー。

真介 ま、血で汚されてもなんだ。気の毒だが洗濯板を、俎板代りに使ってくれや。朴さん。構わねえよな？

あー、どうぞどうぞ。大雨で流れ着いた廃品でやす。存分に

血で染めて頂きやしよう。

山田 ほっほほ。長生きはするものじゃなのう。

と、三人が天の前に陣取り座り込む。

その後ろに全員が見物体制をとる。

一平 東映のやくざ映画みだいすね…。

山田 ああ、ドスが青く光って痛そうなのう。

真介 ヤクザのケジメは厳しいものよ。(と、天に)なあ？

天 何でえ。見世物じゃねえぞ…あ、姐御ーっ！

茜 ふん。自分のケツは自分で拭きな！

真介 あーあ。じれったくて見ていられねえぜ…。

と、天の左手を洗濯板に足で踏み据える。

天の七首を持った手首を掴んで振り上げる。

天 うわわあーっ、何すんだ！

真介 兄ちゃん。江戸っ子は気が短けえんだ！

天 や、止める。止めてくれーっ！

真介 甘ったれんじゃねえ。ヤクザの儀式はこうだろう！

天 あ、姐御っ…助けてくれよーっ！

茜 お、親方ーっ！

玉枝 お前さん。やりすぎだよーっ！

天 うわわーっ。ひえーっ！

真介、構わずズーンと七首を振り下ろす。

天の手元から指が二本、三本飛んで床に転がる。

一平 うわーっ。指が飛んだーっ。

真介 いけねえ。暴れるから手許が狂ったよ。

山田 あらー。指が踊ってるよー？

朴 親方、食べ物の粗末はいけませんや…。

と、転がってる指を掴んで口に入れる。

一平 わーっ。食ったーっ！

玉枝 酒の摘みのソーセージだよー。

真介 ははは、ちよいと小細工がすぎたかな。

茜 親方、脅かさせないでよーっ。

天 (手の平を広げて) ああ、指があるー。

真介 (七首を鞘に納め) 朴さん。刃物の処分は任せるよ。

朴 知り合いのヤクザに売ちつけるか…。

天 あつ。俺の七首…。

朴 警察に届けるていいのかい？ 銃刀所持違反と恐喝。豚箱

は入りは間違いないねえぜ！ (と、麻袋に七首を放り込む)

天 (情けない顔で) へーい。どうでも処分してくださいませ…。

真介 玉枝、銀次が持って来た酒あつたな…。

玉枝 ああ。大事にとつてあるよー。

真介 こう暑くちや叶わねえ。暑氣払いと行くかい？

玉枝 茜、卓袱台を片付けておくれ。

茜 はい、はい。

直樹 (窓から顔を覗かせ) いいねいいね、暑氣払い！

玉枝 直樹、お前も手伝いな！

直樹 へーい。(と、土手口からくる)

真介 おい。二人はここに座れ…。

真介、徹と天を上がり框に座らせる。

戸棚から一升瓶とドンブリ二つ取り出して、徹と天の前に

座ると、ドンブリに酒を満タンに注ぐ。

真介 グツとやって、つまらねえ蟬りを水に流せ！

天 (神妙な顔) へ、へーい。(と、畏れいる)

徹 へへ、酒っこ飲めるとはありがでー。(と、一気に飲む)

天 へっ。大した野郎だぜ！ (と、負けずに飲む)

徹 ふー。うめえー酒っこだちやー。

真介 ははは、二人とも良い飲みっぷりじゃねえか。

徹 へへ、酒っこでは誰にも負けねーです。

真介 さあ、みんなも飲んでくれ…。

山田 朴さん。昼から酒も悪くねえな。(と、朴に酌をする)

朴 へい。滅多にないことで…。

鉄男 全く、何が暑氣払いだよー。(と、友禅机の前に座る)

徹 ん？ (と朴の顔を見つめる) アンダは…。

朴 何だい。ジロジロと気色悪いな…。

徹 えやー。どこで会いすたべ。左官屋だかペンキ屋か…。

朴 俺は廃品回収業の朝鮮人だ。会った覚えねーな。

徹 はあ。すかす何処かで？ (と、訝る)

朴 他人の空似という奴さ。まず飲めや…。(と、酒を注ぐ)

徹 あ、これはどうも…。

直樹 今日の酒は格別だ。駅前で飲む安酒と違うわ。

玉枝 頂き物の上等なウヰスキーだよ。

一平 (茜に) 昼っから酒飲んで大丈夫すか？

茜 お前も一杯飲んでみるかい？

一平 えやー。未成年ですからー。

鉄男 一平。色合わせはどうなってるんだ！

一平 あ、はい。いまからやりまーす。

真介 鉄男。脹れてねえで一緒に飲んだらどうだ？

鉄男 俺は結構です。勝手にやっってください！

真介 悉皆屋なんてモノは、納期を責付くのが仕事だ。納品が一日

二日遅れたって、社会情勢に変化きたす分けてもなからう？

鉄男 冗談じゃないですよ。一にも二にも納期を守れと、教えたの

は親方じゃないですか！

真介 一平、よく覚えておけ。手描き友禅は真っ正直だけじゃ、

色艶あるいい絵は描けねえぞ。

鉄男 酒を飲めば色艶ある絵が描けるんですか？

真介 職仕事は理屈じゃねえ。遊び心の一つもねえじゃ、描き上げ友禅なんか描けやしねーよ。

鉄男、ツカヅカと来て徹のドンブリを奪い。

「貸せ！」と残り酒を徹の顔に引っかける。

徹 うわっ。何すんだっ！

鉄男 (真介に) 注いでください！

真介 よし。それでこそ江戸友禅の職人だ。(と、並々と酒を注ぐ)

徹 鉄男。お前は下戸だろ？

鉄男 兄貴は煩い！ うんぐぐーっ。(と、一気に飲み干す)

真介 ほう。なかなか行けるじゃねえか？

鉄男 ふーっ、不味ーい。が、もう一杯！

徹 止めろ。それ以上飲んだらぶっ倒れるぞ！

鉄男 いい友禅が描けりゃ。ぶっ倒れるぐらい安い…。な、何だあ？
うふ、うふ。ふふーっ。

茜 ヤバい！ 朴さん。バケツバケツ！

朴 あいよー。(と、土間のバケツを充てがう)

鉄男 うおーっ。おえーっ！ (と、吐瀉する)

玉枝 無理して飲ませるからだよー。

山田 玉ちゃん。一人前の友禅職人になる儀式だよ。溜まってる澱
は早えうちに吐き出すことぞ。

鉄男 おえーっ。馬鹿野郎。色艶が何だってんだーっ！

山田 ははは、下戸の酒乱とは珍しいのう。

鉄男 うう、苦しい。夏子ーっ。早く帰ってきてくれよー。みんな
で寄って集っ苛めるんだよー。うおうおうーっ。

山田 ははは、下戸の泣き上戸とは忙しいのう。

真介 これじゃ暑気払いにならん。直樹、木陰に卓袱台を構えろ！
直樹 はいはい。人類の大移動だよー。

と、直樹と一平を先頭にワイワイ言いながら、夫々が手に
物を抱えて鉄男を残して土手口から出て行く。

直樹のギター演奏で、『神田川』の合唱が聞こえる。

ジリジリーン、ジリジリーン。と電話が鳴る。

鉄男 うううー、だれかー。電話ですよー。

ジリジリ、ジリーン。尚も鳴り続ける。

鉄男、苦しそくに起きあがる。

鉄男 何だよ…誰もいないのかよー。(と、ふらついて電話に辿り
つき) ううー、ズキズキ頭が痛てえ…。(と、受話器をとり)
はい、百目木工房…えっ、国際電話？ もしもしもしもし
…あ、夏子かー？ 急にどうしたんだ…何ーっ。帰ってく
る。何で？ 赤ちゃんができたー。誰の？ えーっ！

鉄男、受話器を取り落とし土手口へ消える。

揺れるコードの受話器から夏子の声。

夏子の声 もしもし、もしもし…鉄男さん？

鉄男の声 みなさーん、赤ちゃんができましたー！

全員の声 えーっ、だれのーっ？

夏子の声 もしもし、もしもし…もしもし、もしもしっ。鉄男さん。聞こえてるのー？ もしもし。もしもーしっ！

受話器から夏子の声が呼び続けている。

暗転。

―二幕・一場― 夏の終わり 「百目木工房」内

その深夜。

窓の外には月明かり。

狂い鳴きする弱いカナカナ蝉の声。

真介が伸子（シンジ）に絵筆を走らせている。

渋滞のない筆捌きのように見える。

土手口のガラス戸が開き山田が現れる。

山田 こんな真夜中に、将棋の研究かい？

真介 何だい藪から棒に…。（と、伸子を隠す）

山田 小便に起きたら月が綺麗でな…。

真介 それで川に放尿かい？

山田 爺になると我慢出来ねえだよ。

真介 川の汚染は親っさんが原因だな？

山田 ははは。親方の不眠症はこれだな…。（と、伸子を指す）

真介 あ、何をしやがるんだ！

山田 （眺めて） いい筆捌きじゃねえか。

真介 ふん。手慰みにもならねえよ。

山田 これなら現役に復帰できるな？

真介 まだ、人に見せられるもんじゃねえよ。

カナカナカナ…。と弱々しい蝉の鳴き声。

山田 あの狂い鳴きの蝉だって、何年も土ん中で息をひそめて、天

敵がいねえ夜中に這い出して、殻を破って生まれ変わる…。

真介 俺は蝉じゃねえからな…。

玉枝 （通路からきて） おや。暗いうちから将棋かい？

玉枝、サイフォンでコーヒーを沸かす。

山田 昨日の負けが気になって、眠れねーのよ。

真介 早起きは三文の徳。昨日の仇討ちといくかい？

山田 今日は勝負は勝ちだぜ！（と、将棋盤に駒を並べる）

真介 ははは。悪いが返り討ちさ…。

風子 お早うございまーす。

一平 親っさん。早いつすね？

と、風子と一平が現れる。

一平は友禅机を整え、風子が土間の掃除する。
窓の月明りが朝の色に変わる。

玉枝が真介と山田にコーヒーを出す。

山田 嬉しいねえ。夜明けのコーヒー。

玉枝 何時もより濃い目にしてあるよ。

真介 寝不足だからな。その方がありがたいよ。

玉枝 風ちゃん。みんなを起こしておくれ。

風子 はい。(と、通路の奥に) モーニングの時間よーっ。

鉄男 ああ、コーヒーのいい香りだ…。

直樹 うーす。

茜 あー。まだ眠いよー。

竜二 (土手口から現れ) 風ちゃん。お早う！

風子 あ、所長。お早うございまーす。

と、何時ものメンバーが揃う。

風子がみんなにコーヒーを配る。

風子 茜さん。小説書き上がったんですか？

茜 今日が締め切り日だからね…。

風子 すっかりプロ作家ですね。

茜 風ちゃんもプロの看護婦だろう？

風子 はい。これからが正念場です…。

川瀬 (玉枝に) みんな新しい旅立ですね？

玉枝 行き先のない居候が、約一名いるがねえ。

直樹 はい。その居候からライブの案内です。

直樹、ライブのチラシを配ってまわる。

竜二 おっ。渋谷の「クロコダイル」でやるのか？

風子 本当だ。私も行きたい！

直樹 渋谷を皮切りに新宿、池袋、横浜から横須賀と、ライブツアー
一脚の案内です。チケット代は格安の千円…。

風子 えっ。直樹さんの招待じゃないのー。

直樹 風ちゃん。資本主義社会の芸術活動は厳しいのよ。このチケ
ット代は会場費で、パーなんだからー。

茜 直樹のライブデビューだ。みんなで押しかけるよー。

直樹 えっ、茜さん来てくれるんですか？

茜 はい。全員のチケット代…。(と、一万円札を渡し) これは
あかしからの特別ご祝儀だよ。(と、一万円を重ねる)

直樹 えっ、こんなにいいのー？

茜 ああ、良いライブを期待してるよ。

直樹 くー。茜さん、ありがとーっ。

直樹 えっ、こんなにいいのー？

茜 ああ、良いライブを期待してるよ。

直樹 くー。茜さん、ありがとーっ。

直樹、茜が現金とチケットを交換する。

鉄男が「伸子」を持って真介のもとへ。

鉄男 親方。観て頂けますか？

真介 (ジーンと観て) うーむ。これでは売り物にならないな…。

鉄男 筆が思うように運ばなくて…。

真介 描き上げ友禅は一朝一夕じゃ会得できんよ。

山田 鉄男。こっちの作品はどうだい？

と、別の「伸子」を鉄男に突きつける。

鉄男 えっ。これを親つさんが？

山田 な、分けがねえだろう。(と、真介を顎で指す)

鉄男 えっ。(と、真介を見て) これを親方が…。

山田 これが描き上げ友禅の、筆さばきつものさ。

鉄男 女将さん。こ、これを観てください！

玉枝 何だい。これがどうかしたのい？

鉄男 親方が、親方が描いたんですよーっ！

玉枝 まさか、冗談だろう？

山田 玉ちゃん。そのまさかなんだよー。

玉枝 嘘だよ。こんなの嘘に決まってるよーっ！

夏子 大きな声で何騒いでいるの？

と、通路からお腹が膨らんだ夏子が現れる。

玉枝 夏子。私の頬つべを抓っておくれ！

夏子 何、子供みたいなこと言ってるの？

玉枝 いいから抓って見ておくれよー。

夏子 面倒臭いわねー。(と、力を込めて玉枝の頬を抓る)

玉枝 痛い痛い。痛すぎるよーっ！

山田 玉ちゃん。念願が叶ってよかったなあ。

玉枝 ははは、夏子。あたしゃ嬉しいよー。

夏子 鉄男さん。どういふこと？

鉄男 (「伸子」を掲げ) これ親方が描いたんだよーっ！

夏子 えーっ。嘘でしょう？

山田 字が消える程駒を握り締めて、リハビリしていたのよ。

竜二 師匠は知っていたんですか？

山田 当たり前よ。何十年も付き合ってるんだ。

茜 これで「百目木工房」は万々歳。親方の快気祝いに乾杯！

と、全員がコーヒーカップで乾杯する。

真介と山田が将棋盤の前に移動する。

そこへ、玄関から騒々しく谷が現れる。

谷 皆さーん。ビックニュースでやすよーっ！

真介 騒がしいな。何のビックニュースだい？

谷 (ボンと手を打ち) それがですな親方。聞いてビックリ見てビックリの、ビックニュースなんでやすよー。

真介 前置きはいいから。ニュースの中身だよ？

谷 へーい。本番は来年の正月公演でやすがね。国民的演歌歌手の女王恒例の、「新宿コマ劇場」「新春歌謡ショー」の舞

台衣装が、コンペで決める事なっただんでやすよ！

鉄男 えっ。本当ですかー？

谷 ショーの演目は、『火事と喧嘩は江戸の華』の芝居と、歌と

踊りの時代劇絵巻のエンターテイメントでやす。メインは劇中の大立ち廻り演じる、演歌の女王と敵役の悪玉が纏う衣装でやすがね。町奴の印半纏と侍奴のユニフォーム。踊る町娘たちの衣装一式の大仕事のデザインでやす…。

真介 成る程、ビツクなニュースだ…。

谷 (得意げに) でしょう。親方！

一平 あもう。国民的演歌歌手って誰すか？

谷 当ててみな。上に「み」の字の演歌歌手よ。

一平 「み」の字と言えば、都はるみすか？

茜 馬鹿だねえ。新宿コマの新春歌謡ショーは、ひばりちゃんと決まっているんだよ！

鉄男 お、親方ーっ！

真介 ああ、腕試しにやってみるがいいな。

鉄男 谷さん。コンペ参加するよーっ！

谷 いいねいいね。鉄ちゃん！

玉枝 鉄男、受けてる仕事は大丈夫かい？

真介 鉄男がやってる仕事は、元を正せば俺の仕事だ。復帰の腕試しにやってみるさ…。

鉄男 お、親方。やってくれるんですか？

真介 お前と競うのも悪くないからな…。

谷 えっ。親方が手描き友禅を…。

鉄男 (伸子を見せて) 谷さん。これだよ！

谷 えーっ。これを親方がっ！

真介 ただし、品不足解消の為じゃねえかな。

谷 親方ー、その話は勘弁してくださいよー。

山田 親方の友禅はわしが染めねーとな。

竜二 えっ。親っさんも現役復帰するんですか？

山田 昔、馴染らしたコンビの復活よ…。

谷 嬉しいねえ。名人二人の復活は、業界にとっても大ニュースでやす。コンペの発表は三ヶ月後。審査は演歌の女王直々でやすからね。鉄ちゃん。「アツと驚く」作品を頼むよー。

鉄男 谷さん。任せなさい！

谷 ははは、ああ、宜しく頼みましたよー。

谷、大げさなゼスチャーで玄関に消える。

真介 鉄男、東京友禅作家の熾烈な闘いだぞ！

山田 願ってもねえ大勝負さ。

鉄男 問題はデザインですね…。

真介 舞台衣装は奇抜じゃねえとな。

直樹 鉄男はセンスねーからなあ。

鉄男 直樹に言われたくないね…。

玉枝 (茜に) 毎年舞台を観てるんだ。いいアイデアないかい？

茜 あたしにアイデアと言われてもねえ…。

夏子 あるわよ。取って置きの題材！

鉄男 えっ。どんな題材だよ？

夏子 東京タワーよ。東京タワーっ！

鉄男 駄目だよ。舞台は丁髷の時代なんだから。

夏子 だから面白いじゃない。アメリカから羽田空港に着いた夜、

真っ赤にライトアップした、東京タワーが出迎えてくれた。

ああ、日本に帰ってきたなーって…。

鉄男 それとデザインがどう結び付くんだよ？

夏子 例えば深紅のタワーに絡む、登り龍の派手な火消し装束の番

寺院長兵衛と、猛虎を逃えたラメ織装束の、水野十郎左衛門

の大立回りよ。時代の時空を超えたダイナミックなエンター

テイメント。絶対相応しいと思うけどなあ。

茜 いいねいいね、印半纏の町奴と侍奴が、入り乱れる大群舞の

を背景に、ひばりちゃんの「真っ赤太陽」。想像するだけで

ゾクゾクするねえー。

真介 鉄男。飛んでもねえ世界じゃねえか？

鉄男 よーし。一平、出掛けるぞーっ！

一平 えっ、何処へ行くんですか？

鉄男 東京タワーだよ。直樹、カメラカメラ！

直樹 おーす。ここは俺が出張らねーとな！

と、鉄男と一平、直樹が玄関から出て行く。

真介 親っさん。我々も出かけるかい？

玉枝 あら。どこへ行くのさ？

真介 長年ご無沙汰した染色組合。現役復活の挨拶よ…。

山田 と、コンペのライバルの偵察よ。

竜二 あ、俺もお供にしまーす。

と、真介、山田、竜二が土手口へ去る。

風子 男の人ってヤンチャですわね。

茜 風ちゃん、男はヤンチャがいいのさ。

風子 銀次さん。ヤンチャさうですもんね？

茜 あたしと銀ちゃんは、そういう関係じゃないの。

風子 あら、どういう関係なんですわ？

茜 幼馴染みの腐れ縁という奴さ…。

風子 親方と女将さんは恋愛結婚なんでしょう？

玉枝 戦争中だからね。親同士が決めた許嫁さ…。

風子 それだけに秘めた愛が深い…。

玉枝 愛も恋もあるもんかね。意気なり招集令状がきて、忙しく内

輪で祝言あげて、そのまま外地に出征して行った…。

風子 えーっ。新婚旅行なしですか？

玉枝 当時はそれが当り前さ。下手すりゃ非国民だよ。あの人が出

征した翌年の春だった。高台の産院で夏子を出産して、明日

退院という夜さ…。

風子 何があつたんですか？

玉枝 轟音と赤いランプ点滅させて、B-29の大編隊が夜空を覆

い尽くして、焼夷弾が霰のようにバラ蒔いた。あちこちに火

の手が上がり、街は火の海に包まれて炎が空を焦がした…。

風子 女将さん。東京大空襲に遭ったんですか？

玉枝 逃げ惑う人に火が燃え移り、土手から川に飛び込んで…。夢

中で産院の窓から「逃げる。逃げるーっ！」と叫んだ。産院

にも焼夷弾が直撃して、夏子を抱いて逃げ回り、気が付いた

ら防空壕の中だった…。

夏子・茜・風子 ……。

玉枝 翌朝、防空壕出ると町中が、見渡す限りの焼け野原でね。川を覗くと死体が塞ぎ止めた、ダムに石斑魚が群れていた…。

夏子 お母さん。始めて聞く話だわね？

玉枝 どうして話せるもんかね。(と、ブルツと身震いし)あの酷

い光景は思い出すだけで、今も身の毛が逆立つよ…。

風子 「百目木工房」は焼けなかったんですか？

玉枝 幸いこの川が延焼を食い止めた。が、銀次と茜、竜二たちの長屋が丸焼けになってね…。

茜 病気の母ちゃんが焼け死んで、銀ちゃんが十であたしが七

つ。竜二が五歳で戦災孤児なつてさ…。

風子 えっ、竜二さん。戦災孤児なんですか？

玉枝 銀次が仲間を集めてグループを作り、焼け残った神社の縁の下を根城に、昼は焼け跡の鉄屑拾って屑屋に売り、夜中にその屑屋から鉄屑を盗んで、別の屑屋に売りとばす。警察が手を焼くちびっ子ギャング団だったよ…。

茜 止めてよ。昔をほじくるの…。

風子 茜さん。学校はどうしたんですか？

茜 行ったよ。弁当を掻っ払いにね…。

風子 茜さんの小説。実話なんですね？

茜 それが川向こうのグループと、シマを巡って怪我人が出る争いになって、警察に捕まり銀ちゃんとあたしが、女将さんに拾われて、竜二は山田の親っさんに…。他の連中は少年院や養護施設に引き取られた…。

玉枝 手先が器用だった銀次は、手描き友禅を修行した…。

風子 えっ、銀次さん。友禅を描いていたんですか？

玉枝 物不足で食うのがやつとで、着物どころじゃない時代だった。が、ポツリポツリ注文が来るようになって、何とか工房の先行きに目処ついたが、出征兵士が続々と復員して来るのに、内の人は一向に帰らなくてね…。

風子 親方に何があったんですか？

玉枝 戦死したものと諦めかけた、炎暑の昼下がりがりだった。四歳になった夏子と道路に打ち水していると、ゆらゆら陽炎が揺らめく中からあの人が現れた。今にもどつか消えちまいそう。で、慌てて抱きとつた体が、蟬の抜け殻みたいでね…。

風子 ロマンチックな再会ですね。

玉枝 何がロマンチックなものかい。身も心もボロボロに壊れて、自棄のヤンパチで酒に溺れて、毎日が大変な修羅場さ…。

夏子 私が小学四年生の春だったわ。鉄男さんが集団就職列車できて、銀次さんと遅くまで友禅の修行してた…。

風子 夏子先生は、鉄男さんのそこに惚れたのね？

夏子 こらこら、先走るんじゃない！

茜 その銀ちゃんが、ヤクザと一悶着起こした、あたしを庇って傷害事件起こして、務所送りなつてね…。あたしは何の恩返しも出来ないで、「百目木工房」の居候さ…。

川瀬 おやあ。女性陣だけで何の密談です？

と、玄関から川瀬が入ってくる。

風子 あ、所長。お帰りなさい！

夏子 精密検査の結果はどうだったの？

川瀬 うん。単なる過労だったよ…。

夏子 (急に厳しい顔で) 所長っ！

川瀬 どうしたんだい。怖い顔して？

夏子 お母さん。買い物行くから付き合って！

玉枝 えっ。直ぐにかい？

夏子 ベビー用品のバーゲンセール。今日までなの！

茜 (察して) あっ。あたしも出かける時間…。

と、穏やかな雰囲気が一変。

ソソクサと通路に去る玉枝と茜。

風子 私も一緒に行きまーす。

夏子 風ちゃんは留守番していなさい！

風子 えっ。何ですか？

夏子 いいからっ！(と、川瀬に強い視線を向けて去る)

風子 夏子先生。急にどうしたのかしら？

川瀬 (小さな声で) お節介だなあ…。

と、上がり框に座り煙草に火を付ける。

ジージー。ミンミンミンミー。

外の桜の樹木から蝉の音が轟しい。

川瀬 あの日も、蝉が鳴いていたよ…。

風子 えっ。あの日って何時ですか？

川瀬 広島に原子爆弾が投下された日さ…。

風子 所長は、広島生まれなんですか？

川瀬 徴用で工場で働いていた姉と、小学校生だった僕はピカドン

から免れたが、爆心地に近い家は、跡形もなくやられて、

父と母の骨を拾えなくてね…。

風子 まあ。ご家族が原爆の犠牲者に…。

川瀬 姉と僕は叔母夫婦に育てられて…。野球が好きな僕は従兄弟

たちと、暗くなるまでボールを追いかけた。姉は毎試合に応

援にきてくれてね…。

風子 優しいお姉さんですね。

川瀬 二人だけの姉弟だからね…。その姉の友人が原爆症患者で、

正義感が強い姉は医者になって、原爆症患者を救う決心し

て、夜遅くまで医大受験の勉強をしてね…。

風子 素晴らしい志ですね。

川瀬 その姉が受験直前に熱を出して、被爆が原因の白血病と診断

され、病院に入院する事になった…。

風子 えっ。お姉さんが白血病ですか…。

川瀬 雪が降る夜明け前だった。病院から呼び出されて、叔母夫婦

と駆けつけると、姉は毛糸の帽子で頭を包んで、痩せた身体

をベッドに横たえていた。僕の手を握り「一緒に生きられな

くてごめん」と握った手から力が抜けて…。泣いても泣いて

も涙が止まらなくてね…。

風子 うっうー。(と、顔を覆い) 所長はそれで医師に…。

川瀬 野球少年に医大の受験勉強は、地獄の百本ノックより厳しく

てね…。(と、灰が伸びた煙草を灰皿に捨り) 風ちゃんとの
出合いは、ベトナム反戦のフオーク集会だったね…。

風子 はい、新宿西口の地下道で…。「我々日本の青年・学生の戦
いは、アメリカ帝国主義の空爆下で戦う、ベトナム人民と連
帯している…」と所長の演説に、私生き方を決めました。

川瀬 (照れて) ははは、あの頃は青かったなあ…。

風子 警官隊が催涙弾を発砲して、集会が大混乱になって…。

川瀬 地下道から街に逃げ出して、走り疲れてヘタリ込んだ所が、
歌舞伎町の交番前で、慌てて逃げ込んだ所が旅館でさ…。

風子 受付の小母さんが、「休憩？ お泊まり？」って…。思わず
私が「泊まり」と言った時の所長の顔…。私、可笑しくって
可笑しくって…。

川瀬 あの時驚いたよ。這々の体で「灯」に逃げこんでさ…。

風子 ロシア民謡を歌って、あの日のことは忘れられないわ…。

川瀬 そのすぐ後のことさ…。

風子 何があったんですか？

川瀬 姉と同じ症状が現れてね…。

風子 えっ。原爆症の？

川瀬 僕は運命論者じゃないが、宣告された時は呪ったね…。
風子 ……。

無言の長い間。

蝉の鳴く声が轟しく響く。

風子 その運命と、どう向き合ってるんですか？

川瀬 その現実から逃げ回って堂々巡りだ…。

風子 それで運命が変わるんですか？

川瀬 それが一番の悩みだね…。

風子 何で正面から闘わないんです？

川瀬 原爆症は思想や信念では解決出来んさ。ただ闘いと言えるか
分からんが、広島で被爆者と向き合う積もりだよ。

風子 えっ。診療所を辞めるんですか？

川瀬 黙って行くつもりが、夏子君にこっぴどく叱られてね。

風子 私も所長と広島にいきます！

川瀬 風ちゃん。君には長い人生がある！

風子 でも、所長を一人にできません！

川瀬 これは僕の人生だ。同情はいらないよ！(と、ポケットから
封書をだし風子に渡す)

風子 (封書の裏を見て) 瀬戸内明子さんて？

川瀬 彼女と結婚するんだ…。

風子 えっ…。(と、封書を返す)

川瀬 彼女は原爆病院の医師で、僕と同じ被爆者なんだ…。(と、
歩きだし) 黙っていて済まなかったね…。

風子 うううーっ。

と、上がり框に蹲って嘔り泣く。

川瀬、土手口から出て行く。

窓が夕焼けに染まり工房内が暗くなる。

暫しの間。

竜二が現れてスイッチを入れる。

竜二 風ちゃん！

風子 (涙を拭き) あ、竜二さん…。

竜二 泣いているのかい？

風子 ううん。考えごと…。

竜二 あ、そうかい…。

と、風子の前を思案顔で歩く竜二。

竜二 今夜、時間ある？

風子 何か用？

竜二 映画観に行かないか？

風子 何の映画…。

竜二 『パピヨン』。マックイーンが格好よくつてさ。ダステイ・

ホフマンが抜群にいいんだ…。

風子 面白そうね…。

竜二 行ってくれるかい？

風子 でも、今その気分じゃないわ…。

竜二 やっぱりな。相手が俺だからだろう？

風子 えっ…。

竜二 戦災孤児の染め職人とじゃ、釣り合わねえもんな…。

風子 竜二さん。それどういう意味…。

竜二 いや、良いんだ。俺の一方的な思い込みだから。ただ黙って

サヨナラも、悔しくつてさ…。

風子 サヨナラって。何処行くの？

竜二 俺、染色の仕事を辞めたんだ…。

風子 えっ。「山田染色」を辞めるの？

竜二 親っさんを怒らせてさ。勘当されちゃったよ…。

風子 それで好きな染め職人を辞めるの？

竜二 だから風ちゃんとも、今日でオサラバって分け…。

風子 馬鹿…！

と、いきなり竜二の頬にピンタを張る。

竜二 あっ！ (と、頬を抑える)

風子 弱虫は嫌いよ！

と、土手口へ走り去る風子。

竜二、頬を摩り呆然と見送る。

竜二 へっ。これで何も思い残すことねえや！

一平の声 良い写真、写ってるかなー？

直樹の声 バツチリさ。誰が撮ったと思うんだ？

鉄男 おっ、竜二。来てたのか！

と、玄関から直樹と一平、鉄男が現れる。

直樹 一平、現像を手伝え…。

一平 はーい。(と、直樹と一平が通路へ去る)

鉄男 竜二。コンペのアイデア浮かんだぜ！

竜二 ふーん。それは良かったな。

鉄男 何だよ。気のない返事だな？

竜二 俺さ。「山田工房」を勘当されちゃったよ。

鉄男 えーっ。勘当って…親っさんがかい？

竜二 半端な弟子はいらねえってさ。

鉄男 竜二。一体、何があつたんだ？

竜二 何もねえよ。染めに愛想つかしたからさ…。

鉄男 嘘つくなよ。好きな染めの仕事止めて何すんだよ？

竜二 歌舞伎町でダチ公のバーを手伝うよ。

鉄男 バーってお前。何だよそれよー？

竜二 ゆくゆくは俺も店を出さず。その時は招待するからよ！

鉄男 (胸ぐらを掴み) 竜二。本気で言ってるのか！

竜二 売れっ子の友禅作家と違つてよ。染職人は朝から晩までドブ鼠みてえに汚れて、三度の飯を食うのがやっつとだ。結婚して

幸せな家庭持ちには分からねえよ…。

鉄男 何だと。もう一遍言ってみろ！ (と、胸ぐらを掴む)

竜二 どんない染めをしたつて、所詮はお前の添え物だ。何の希望ももてねえ俺の気持ちは、お前には分からねえよ！ (と、

鉄男の手を振り払う)

鉄男 ああ、負け犬野郎の気持ちなんか、分かつて堪るかよ！

竜二 金を稼げなきや何を言つても、負け犬の遠吠えだ。俺だつて

人並みに暖つたけえ、家庭が欲しいんだよ！

鉄男 水商売で稼いだ泡銭で幸せが買えるのかよ！

竜二 ま、今更議論しても始まらねえ。陰ながらコンペの成功を願つてるぜ。アバヨーっ！ (と、土手口から出て行く)

一平 (飛び出してきて) 止めなくていいんすか？

鉄男 ああ、去る者は追わずだ。あんな奴は放つておけ！

一平 竜二さんじゃないと、師匠の染めは駄目ですよ！

鉄男 いいから、お前は糞して寝ろ！

一平 ……。(土手口から飛び出して行く)

鉄男 馬鹿野郎っ。俺の染めは誰がやるんだよーっ！

と、友禅机の前で頭を抱える鉄男。

暗転。

―二幕―三場 一九七〇 夏

茜が卓袱台で原稿に赤ペンでをチェック入れている。

その横で繕い物をする夏子。

ヨンがギターを爪弾く直樹にまわりつき、一平が熱心に

「伸子」に色を挿している。

真介と朴が将棋盤を挟んで勝負に興じている。

そこへ、玄関から買ひ物カゴを抱えた玉枝が現れる。

玉枝 夏子。所長から手紙だよ。(と、手渡す)

夏子 所長から手紙なんて珍しいわね…。(と、り開封)

真介 所長は元気にやつとるのか？

夏子 被爆患者と、向き合っているって…。

真介 ほう。所長も居場所を見つけたかい。

夏子 所長。結婚したって…。

玉枝 えっ。原爆二世の誕生を恐れて、結婚避けていたのにかい？

夏子 はい、平和公園で式を挙げた写真…。

玉枝 おや。嫁さんもお医者さんかい？

夏子 奥さんも被爆者だって…。

茜 (覗いて) ふーん。随分美人ねえ。

直樹 所長はあれで面食いだからな…。

そこへ、玄関から鉄男と徹が現れる。

鉄男 ただ今もどりましたー。

茜 おっ。帰ってきたねー。

直樹 (無神経に) 務所暮らしはどうだった？

玉枝 (直樹を睨んで) 直樹。何て事言うの！

直樹 (ペロを出して) へへっ。イケねー。

徹 (上がり框に座り) 警察は非人道的などご大…。

茜 何だい。暴力でも振るわれたかい？

徹 煙草一本吸わせでくれねよ…。

鉄男 当り前だよ。何処の警察が泥棒に煙草サービスするよ！

茜 吸うかい？ (と、煙草とマッチを放る)

徹 あ、ありがどがす…。

と、震える手で煙草に火を点ける。

徹 やっぱす、娑婆はええなあ…。

鉄男 何が娑婆だよ。こっちは地獄の気分だよ！

徹 うわーっ。な、何だべやあ？

徹、ゴロンと土間にすっ転がる。

徹 あー、クラッと来た…。

茜 ははは、禁断症状に急に吸うからさ。

徹 地球が廻ってるよーっ。

鉄男 馬鹿が。兄貴の目が回ってんだよ！

安代 (通路から現れて) あ、アンダーっ！

徹 な、何だー。なすて安代がえるんだ？

鉄男 俺が連絡してきてもらったんだ。

徹 まだ、余計なごどすてー。

安代 余計なごどすたのはアンダですが！

徹 手土産に地酒を持って来たが？

鉄男 兄貴、煙草だ酒だっていい加減にしろよ！

徹 何、怒ってるんだ？ お前は留置所の苦勞知らねがら、そっ

たら薄情なごと言えるんだ…。

鉄男 そんな苦勞を分って堪るかよ！

徹 期限一杯拘留させで、つくづく兄弟甲斐ねえ男だ…。

鉄男 建築現場の大工道具を、掻っ払って質に入れてよ。夜中に警

察呼び出されて、縄付きの兄貴と対面して、こんな質札の束

を見せられた時は、顔から火がでたよ！

徹 何だあ。舎弟のくせに説教するだが？

安代 アンダ。何語ってるのしや。散々鉄男さんに迷惑かげで、頭

下げて謝まらえんちゃ!

徹 何だあ。嫁の分際でやかますね。

安代 嫁の分際だからでがす。田舎に年寄りど童子残されて、仕送

り一つねえ亭主待ってる、おらになじよするつつのしや?

徹 やがますやがます。人目の悪りごと抜すでねーっ!

安代 やがますのはアンダだ。稼いだ錢は酒ど博打で摺って、挙句

が警察沙汰起こすて、よくそつたら能書き垂れで、おしよす

ぐねのすかっ!

玉枝 何を騒いでいるんだい?

と、玉枝が徳利を盆に乗せて現れる。

徹、横からいきなり徳利を掠る。

徹 ありがてえ。酒つこだちやーっ!

玉枝 あっ、ちよいとー。

鉄男 兄貴ー。それは親方の…。

と、止める間もなく一気に飲み干す。

徹 あー、五臓六腑さすみるー。

鉄男 ああ。酒飲んじやったよー。

徹 ありや。おらの酒こでねのすか?

真介 良いってことよ。玉枝、兄さんの出所祝いと行くかい?

玉枝 (笑って) 茜、手伝っておくれよー。

茜 はーい。

徹 えやー。えらく話の分かる親方だー。

鉄男 何が話の分かるだよ。こっちは気が狂いそうだよ!

と、鉄男が上がり框で頭を抱える。

玉枝と茜が卓袱台に酒と料理を揃える。

何時もの如く夫々が卓袱台を囲む。

安代 これがらなじよするのしや!

徹 まんず。酒こ飲んでがらだ…。

安代 まったぐ、アンダどういう人は…。

真介 鉄男。大工の腕前はどうかんだ?

鉄男 元々は腕の良い大工なんですが…。

真介 何か難しい事情があるのか?

鉄男 仲間の保証人になって借金を抱えてから、スツカリ人が変わ

つて…。請負った仕事は前金で貰い、博打と酒で金を使い果

たし、仕事を途中で投げ出して姿を眩ます。そんなデカタン

で親を泣かせて、村に居られなくなつたんです…。

真介 うーん。よくありそうな話だな…。

鉄男 迷惑かけて済みませんです。

真介 玉枝、アパートの修繕はどうなってる?

玉枝 手配してないけどどうかしたのかい?

真介 鉄男の兄さんに頼んだらどうだ?

鉄男 親方、それは駄目です。責任を負えません…。

真介 このままじゃ田舎に帰れんだろう?

徹 安代、膨れっ面すてねで酒ご告げちゃ…。

鉄男 何の反省もなくあれですから…。

真介 なーに、誰だつて道を外すことはあるさ。

徹 安代、ここで東京の皆さんがだに、NHKの喉自慢で鐘を

三つ鳴らすた、喉をご披露したらなじよだ？

安代 アンダ何語るのしや。やめでけらえん！

一平 のど自慢で鐘三つ鳴らすたすか？

徹 安代は鬼瓦の面すてるが、村の結婚式には欠かせね、『長持

ち唄』の名手だ…。

安代 アンダ。余計なごど止めらえん！

茜 折角の出所祝いだ。名手の喉を聞こうじゃないか？

直樹 いいねいいね。歌って歌って！（と、急ぎ立てる）

安代 やんでがすやんでがす。なつたらやんでがすー。

一平 はいはい。みなさーん。手拍子手拍子ーっ！

全員の手拍子に渋々と立ち上がる安代。

舞台の中央に進みキリツと姿勢を正す。

安代 ンでは、みなさんのリクエストにお応えすて。東北には夫々の地方に、『長持ち唄』がありますが、官城の『長持ち唄』をご披露させでえだきます…。

と、小節利かせて朗々と『長持ち唄』を歌う。

朴が手拍子をとり口ずさんでいる。

徹がその朴を不思議そうに眺める。

安代 （歌い終わり）どうもお粗末でがすた…。

茜 凄く凄く、凄くよーっ！

直樹 ブラボー、ブラボーっ！

一平 えやー、ええ声でぶつたまげだー。

玉枝 流石に本場の民謡は違うねえ。

真介 正調の『長持ち唄』じゃな…。

と、全員が安代にヤンヤの拍手を送る。

徹 （朴に）あんだも宮城県人すかや？

朴 何だい。前も言つたらう。朝鮮人の屑屋だつて…。

徹 『長持ち唄』ば何処で習つたのしや？

朴 ああ。思い出したくもねえ、シベリアの抑留地で、死んだ男が壊れた蓄音機みたいに歌つてた…。

徹 ありやー。アンダもシベリア帰りすか？

朴 親方、どうもご馳走になりやした…。

玉枝 おや、もうお帰りかい？

朴 雨が小止みになりやしたんで…。

玉枝 長く引き止めて悪かつたねえ。

真介 明日も雨だと嬉しいねえ。

朴 親方。あつしら廃品回収は、三日も雨に振ちゃ顎が干上がり
ますよー。ヨン、帰るぞーっ。

ヨン はい。直樹またねー。

直樹 ああ、日曜日は後楽園だぞ…。

ヨン 分かってるよー。

と、「イムジン河」を歌って土手口へ去る。

徹 やっぱす。あれはどこがで見た顔だな…。

茜 (安代に) 民謡酒場で歌ってみないかい？

直樹 おっ。それ面白いですねえー。

安代 どこに土具せ田舎民謡だでは。おしよすがすちやー。

茜 土臭いからいいのさ。アンタの声は金稼げるよ。

安代 えっ、歌っここで金稼げるのすか？

徹 馬鹿なこと言ってるねえで、お前は夜行で帰れ！

安代 アンダ。そしたら大口叩ける立場なの？

徹 年寄りと童すが待つてる…。

安代 近所がら選別貰って来てるに、手土産の一つ持だねで、どの

面下げで帰れつのしゃ？

徹 何だあ。釜男みでに煤け顔すて…。

玉枝 (安代に) 部屋なら空いているよ。

鉄男 ちよ、ちよとと女将さん。

玉枝 何か文句あるかい？ あたしや百目木アパートの主だよ！

鉄男 いやー。それは幾ら何でも…。

玉枝 ただしアパートの修理をして貰うよ。

徹 えっ。おらがアパートの修理ですか…。

玉枝 ああ、真つ当な腕を見せておくれよ！

徹 こんなおらに…うううーっ。(と、涙を流す)

茜 よっしやー。逗留決まりだね。案内するから付いて来な！

直樹 おおっ。と言うことは俺の隣の部屋だ。アパートの仕来りを

教えとかねえとな…。

茜と直樹が安代と徹を従えて通路へ去る。

一平 ええなー。歌手デビュー。

鉄男 お前は友禅に専念してりやいんだよ！

一平 へ、へーい。(と、筆洗を持って奥へ去る)

玉枝が卓袱台の上を片付ける。

鉄男は鉢巻きを締めて仕事に戻る。

土手口から山田と白衣姿の夏子が現れる。

山田 銀次の野郎はまだかい？

玉枝 そろそろ時間だがねえ。

真介 立ち退かないで良い方策はねえかい？

山田 染めは此処の湧水が命だからなあ。

銀次 どうも、お待たせいたしました…。

と、玄関から銀次と天が現れる。

天が柵のグラブを取って、ガラクタの箱に腰を掛け、バシ

ッ！ とグラブにボールを打ち付ける。

銀次 今日は色よい返事頂けると、嬉しいんですがねえ？

玉枝 お前もしつこいねえ。

銀次 だって女将さん。こんな目出度いチャンスは、一生に一回あるかどうかの、願ってもない巡り合わせですよ。

玉枝 立ち退きの何処が目出度いんだい？

銀次 都庁移転の計画で、この川つべりの湿地が坪何千万ですよ。工房と診療所の敷地合わせりや、何十億の保証金が手に入る。親っさんの染色工房だって一〇億は下らない…。

玉枝 そんな途方もない銭は、身を滅ぼす毒だよ。

銀次 税金対策に賃貸マンションを建て、有価証券の利鞘で稼いで、土地が安い郊外に豪邸を構えて、夏は涼しい軽井沢…冬は温暖な海浜の別荘暮らし。豪華客船で世界一周しても、使いきれる金額じゃない…。

真介 そんな話は何度も聞いた。ここを立ち退く気はねえよ。

銀次 気持ちには分かりますがね。廻りは立ち退きが決まって、残るはこの一画だけです。早い決断が得策だと思いますがねえ。

玉枝 やくざ者を使って追い立てたからだろ！

銀次 女将さん。誠心誠意を尽くした結果ですよ。

夏子 銀次さん。住民を追い出して良心は痛まないの？

銀次 お嬢さん。俺は法を犯してる分けじゃないんだ。

夏子 法を犯さなければ、何をしてもいいんですか！

銀次 俺は住民の利益を優先して…。

夏子 住民の利益優先と言うなら、再開発を止める事よ！

銀次 どんな反対しても開発は進むんだ。最終的には強制撤去ということになりますよ。

夏子 あら。それは脅迫かしら？

銀次 いいえ。事実を申し上げているんです。

山田 銀次、染め職は大量に水を使う仕事だ。ヘドロで川が使えなくなつたいま、此処の湧水だけが命なんだよ。

銀次 親っさんには水が綺麗な、代替地を用意しますって！

山田 ここで続けてこそその東京友禅よ。染色は所沢だの飯能くんだりに都落ちして、間尺が合う仕事じゃねえ。

銀次 親っさん。それが無理なんですって！

夏子 銀次さん。立ち退き決めるのは住民なのよ？

天 ああつ、もーっ！

と、天がポールごとグラブを床に叩きつける。
ポールが弾んで夏子の足に当たる。

玉枝 妊婦に向かって何て事するんだい！

銀次 馬鹿野郎。話を打ち壊す気か！（と、グラブで張り倒す）

天 だ、だって兄貴。これじゃ埒あかねえよ！

銀次 いいから、お前は事務所に帰ってろ！

と、天をど突き回して玄関の外に放り出す。

銀次 どうも。みっともねえことで…。

真介 銀次、話はこちらまにして帰んな！

銀次 お、親方っつ。（と、土間に土下座して）この通りです。書類に判を押してください！

真介 馬鹿野郎。男が土下座するんじゃない！

玉枝 銀次、お前が諦めれば済む事だろう？

銀次 俺が諦めて済むなら、始めから出向きませんよ。(と、苦し

そうに) もう後戻り出来ねえ所まで来ているんだ…。

真介 親っさん、銀次の根性が何ぼのものか、奥で一杯やって待とうじゃねえか…。

と、真介、山田、玉枝、鉄男が通路奥へ去る。

夏子 銀次さん。後戻り出来ないってどういうこと？

銀次 お嬢さんには関係のない話ですよ。

夏子 このままじゃ、何処までも平行線よ。何か解決の方法はないのかしら？

銀次 金で解決する以外に、方法はありませんよ。

夏子 例えば集合住宅にして、住み続けられるとか…。

銀次 お嬢さん。今となつちやあ無理ですよ。

夏子 銀次さん。お互いが妥協出来る道を探すのよ！

鉄男 (通路から顔を出し) 夏子…。

夏子が語り足りない表情で通路に去る。

銀次 住民が住み続けられるか。そんな妙案がありや苦労しねえよ。

ははは、地上げ屋が同情されちゃ、飛んだお笑い草だ…。

と、ズボンの埃を払い電話のダイヤルを回す。

窓の外に茜が現れて銀次の様子を伺う。

銀次 ああ、銀次です…はい、面目ありません。はい、分かっています…今が正念場なんです。もう一度チャンスをご覧ください。

俺も男です。その時は必ず…。(と、電話を切り)

上がり框で煙草を銜えてポケットを探るが、マッチが無く煙草を土間に投げつける。

土手口から茜が現れる。煙草を拾い火を点け銀次に渡す。

茜 何を企んでいるのさ？

銀次 茜か。何も企んじやいねーよ。

茜 いくら銀ちゃんでも、此処に危害加えたら承知しないよ！

銀次 ああ、お前を泣かす真似はしねえよ。

茜 絶対だよ！

と、銀次の頬にキスして土手口へ去る。

銀次 ふん。俺が悪者になりやあ、済むってことよ…。

銀次、頬の口紅を拭い灰皿に煙草を捨てる。

大きく溜息を履いて土手口へ去る。

暗転。

鉄男と一平が友禅机で色を挿している。

卓袱台で原稿を読む茜と風子。

玉枝と夏子が針仕事をしている。

直樹が窓辺でギターを爪弾いている。

縁台で真介と山田が将棋を指す。

谷の声 ビックニュースですよ。ビックニュース！

と、玄関から谷が満面の笑顔で現れる。

玉枝 何だい騒々しいね。何のビックニュースだい？

谷 歌謡ショーのコンペ、「百目木工房」の東京タワーが、決まったんですよーっ！

鉄男 えっ。本当かよーっ！

玉枝 谷さん。悪い冗談じゃないだろうね？

谷 とほほほ、信用がないねえー。

茜 日頃の行いが悪いからだよ。

谷 プレゼンの会場には、いろいろなデザイン柄がビッシリ飾られやしてね。演歌の女王が審査員を引き連れて、「東京タワー」の前で足を止めたんでやす…。

風子 それでどうなったんですか？

谷 「私の舞台衣装はこれだ！」と女王の鶴の一声ーっ！

一平 やったやった。ばんざーい！

夏子 (拳を握り) 鉄男さん。よかったわね！

鉄男 ああ、夏子のアイデアが生きたよ！

直樹 くー。鉄男の野郎すげえーな。

茜 居候とは出来が違うんだよー。

直樹 へーい。努力しまーす！

山田 それで、他はどう決まったんだい？

谷 女王の衣装と町奴が着る、印半纏は百目木工房に…。(と、躊躇して) 敵役水野十郎左衛門と、侍奴のユニホームは、手描き友禅を分業でやってる、工房に決まりやした…。

山田 ほー。それは面白い。因縁の対決なっただのう。

鉄男 親方、やっぱり大手が出てきましたね。

真介 願ってもねえさ。仕事で勝負してやるさ！

鉄男 谷さん。相手のネタはどんなです？

谷 鉄ちゃん。それは企業秘密ということさ…。

山田 何を言ってるんだい。互いに切磋琢磨して良い物出きりや、業界の発展になるだろうが？

谷 流石、業界の重鎮のお言葉…相手の絵柄は猛虎が咆哮するラ

メ織りの装束に、猩猩緋の陣羽織でやすよ…。

山田 敵もさる者引つ掻くもの。面白れえ絡みが見られるな。

真介 鉄男、邪道と侮っていたが、負けられねえ大勝負なっただな！

鉄男 はい。ファイトが湧いてきました！

玉枝 直樹、祝いの買い出し行くよ！

直樹 へへっ。只酒が飲めるぞー。

真介 待て玉枝。クラブ「紫苑」に繰り出すのはどうだ？

玉枝 お前さん。「紫苑」は高級クラブだよ。

茜 嬉しいねえ。クラブ「紫苑」百目木工房の貸切するよーっ！

直樹 流石、茜姐さんの太っ腹ーっ。

谷 あのうち。私もご相伴していいですか？

鉄男 谷さん。勿論だよーっ！

谷 鉄ちゃん。お目出度とーっ！

と、谷が鉄男の頬にキスをまくる。

鉄男 あっ。止める！ 夏子。助けてくれーっ！

全員 あはははははー。

と、谷と鉄男の絡む様子を爆笑して喜ぶ。

暗転。

―二幕― 五場 一九七〇年の夏

鉄男が机の前で反物を眺めている。

卓袱台で夏子が縫い物をしている。

直樹が窓の外でギターを爪弾いている。

真介と山田が将棋を指す。

一平が「印半纏」を衣桁に掛ける。

玉枝 いい色が出たじゃないか…。

一平 あ、有り難うございます。

玉枝 一平も職人らしくなってきたねえ。

一平 いやあ。まだまだ半人前です…。

鉄男 一平。町奴の半纏はお前に描いて貰うぞ！

一平 えーっ。おれが本番を？

鉄男 友禪は本番を描いてナンボだ。但し柄が単純だからって、二

〇着分の色付けは半端じゃないぞ。

一平 はい。頑張ります！ (拳を握りガッツポーズ)

鉄男 親方。まだ試作品ですが…。(と、反物を手に真介の前へ)

真介 どれ。(と、見入り)うむ。良い出来だよ。

山田 ほう。大きな壁を越えたようだな…。

真介 ただ地染めの色斑がな。何処の染め屋だ？

鉄男 はあ。川向こうの…。

真介 あそこの三代目じゃ。この染めは無理だな…。

鉄男 竜二がいれば問題ないですがねえ。

玉枝 親っさん。竜二から連絡はないのかい？

山田 あるわけねえさ。染めが嫌で出ていったんだ…。

玉枝 竜二も恩知らじな子だねえ。

山田 俺の考えが甘かったのよ。パチッ！

真介 親っさん。それ二歩だよ…。

山田 いけねえ。耄碌だけは進みやがるな！

真介 意地張らねえで竜二を呼び戻せよ。

山田 「山田工房」も撤退時かも知れねーよ。

真介 何を弱気なこと言ってるんだい！

鉄男 茜さん。竜二説得してくれませんか？

茜 盗みかっ払いの浮浪児を、一人前に育てた親っさんに、恩

を仇で返したんだ。へソ曲げたら梃でも動かないよ。

そこへ、ガラクタを担った朴が土手口からくる。
その朴の背後から黒崎が現れる。

朴 女将さん。金目の物はありませんや…。

玉枝 そうそう、お宝は流れちゃこないよ。

朴 この薬缶はまだ使えますが…。

玉枝 それは柱に掛けとっておくれ…。

朴 へーい。(と、薬缶を柱の釘に掛ける)

黒崎 (背後から) やあ、朴さん…。

朴 あ、これは警察の旦那？

黒崎 廃品回収の景気はどうだい？

朴 あつしらは関係ありませんや。

黒崎 近頃、羽振りいいって噂だよ。

朴 親子三人飯食うがやつと。根も葉もない噂でやすよ。

黒崎 (写真を出し) 所でこんな物見た覚えはないかね？

朴 刃毀れた草刈り鎌ですか。これが何か？

黒崎 戦後、東北のある地方で起きた、「草刈り鎌殺人事件」の凶器でね…。

朴 何でそんな物を何であつしに？

黒崎 仕事柄見かけた事が、あるんじゃないかと思つてね…。

朴 旦那、あつしは朝鮮人ですよ。東北で起きた殺人事件なんて、

お間違いのお尋ねですよ。(と、写真を返す)

黒崎 所で朝鮮の生まれは、北かい？ 南かい？

朴 はあ？ 北ですが…。

黒崎 北は北でも、日本の北国じゃないのかね？

朴 旦那ー。あつしの何を探っているんです？

黒崎 ああ、済まないねえ。つい職業柄の悪い癖でね…。

朴 変な探りは止めてくださいませよ。

と、朴が憤然とした態度で土手口へ去る。

黒崎がその朴をじつと見送る。

玉枝 巡査長。朴さんに何の用だい？

黒崎 近ごろ空き巣を働く輩がおりましてね。戸締まりの用心に声

を掛けて、廻っておるところですよ…。

玉枝 そうかい。それはご苦労さんだねえ。

黒崎 (将棋盤を覗き) こちらは、平和な風景ですなあ。

真介 保安官も平和そうじゃねえか？ パチリ！

黒崎 はい。この平和の長続きを願っております。

山田 警察が忙しいとロクな事ねえからな。

黒崎 親っさん。王手飛車とりですよ。

山田 あらら。平和が崩れちゃったよー。

黒崎 どうも本官はこれで。くれぐれも戸締まりにご用心を…。

(と、夏子に) 生まれてくる赤ちゃん。男の子だつて？

夏子 (笑つて) そんなのわかりませんよ。

黒崎 ギターの兄ちゃんが言つてたよ。

夏子 ははは、口から出まかせですよ。

黒崎 どちらでも、元気な赤ちゃんだと嬉しいね…。

夏子 はい。ありがとうございます。

と、黒崎が笑顔で軽く敬礼をして玄関へ去る。
トルルー、トルルー。ピンク電話のコール音。

鉄男 (受話器をとり) はい、「百目木工房」です…えっ、新宿警察？ はい…おりますが…お待ちください…。(と、受話器を抑え) 親っさん。新宿警察からだって…。

山田 ほう。早速こそ泥が入ったかな…。(と、受話器を受け) はい、山田染色の山田ですが…えーっ。それはお手数おかけしました…すぐにお伺います…。

山田、受話器を握り茫然と立ち尽くす。

玉枝 親っさん。何があつたんだい？

山田 竜二の野郎からだ…。

鉄男 えっ。竜二が？

山田 歌舞伎町でチンピラと喧嘩沙汰起こして、身元引受人に俺を選んだとよ…。

鉄男 あの馬鹿野郎。何をやってるんだ？

真介 親っさん。一緒に行こうか？

山田 済まん。頼むよ…。

鉄男 俺も行きます！

と、取るものも取らず出て行く三人。

夏子 竜二君、戻るといいね…。

玉枝 そうだと嬉しいが、竜二は頑固だからねえ。

夏子 あら、夕飯支度の時間だ…。

玉枝 今夜のお菜は何にしようかねえ。

と、夏子と玉枝が通路奥へ去る。

窓の外の景色が夕焼けに変わる。

一平が筆洗を手に通路奥へ引っ込む。

外にトラックのエンジン音がして停まる。

玄関からヘルメット被った銀次が現れる。

銀次 誰もいねえーか…。

と、上がり框に座り煙草を燻らす。

そこへ、土手口から点が現れる。

銀次 天か。何の用だ？

天 外のダンブ何に使うんだよ？

銀次 お前にや関係ねえ…。(と、煙草を灰皿にねじり) どうでもカタつかねーなら、火を付けるとよ…。

天 それで、何しようってんだ？

銀次 派手に事件でも起こさなきゃよ。大勢の死人が出る…。

天 だからって、兄貴がやつちやいけねえよ！

銀次 不動産業は終わりだ。お前は帰って事務所片付けてろ！

天 (箱のバットを握り) 兄貴ー。

銀次　グズグズしねえで早く行けよ！
天　兄貴。済まねえーっ！

と、天が銀次の頭にバットを振り降ろす。
ガツーン！　鈍い金属音がして銀次が崩れる。

銀次　天、てめえ…。（と、動かなくなる）
天　茜姐この涙を見たくねえんだよ！

と、銀次のヘルメットを剥いで土手口へ去る。
暫くしてトラックの瀑走音。
ドカーン！　バリバリバリーッ！
激しい家鳴りがして柵の物が落ちる。

一平　な、何だーっ！（外に飛び出して行く）
茜　何が起きたんだよーっ！
玉枝　飛行機の墜落いかい？
夏子　地震じゃないの！
茜　あつ。誰か倒れてるーっ！
玉枝　（目を凝らして）銀二じやないか？
茜　ぎ、銀ちゃん。銀ちゃん！（と、激しく揺する）
銀次　ううー。（と、蘇生して）あー、痛てえーっ！
茜　こんな処で何してるんだよー。
銀次　て、天の野郎はどうした？
玉枝　天？　天なんかいないよ。

一平　大変だよー。ダンプが突っ込んでるーっ！
茜　えっ。まさか銀ちゃんじゃないだろうね？
銀次　すまねえ。そのまさかだよ…。
茜　馬鹿っ。危害を加えないって約束じゃないかーっ！
玉枝　銀次、立退き反対の腹いせかい！
銀次　何とも面目ありませんです…。
黒崎　（玄関からきて）外のダンプは何ごとです？
玉枝　ああ、間の悪いお巡りだねえ…。
茜　ダンプ野郎の居眠り運転だよー。
黒崎　バックで居眠り運転はしないでしよう？
銀次　前からじゃ、命が危ねえからさ…。
黒崎　ほう。お前さんの仕業かい？
天　（現れて）銀次兄貴じゃねえ。やったのは俺だ！
銀次　天。お前は黙ってる！
黒崎　込み入った事情がありそうだ。署まで同行願おうか？
茜　あたしも行くよ！
黒崎　部外者にご遠慮ください…。
茜　えいっ！（と、黒崎を蹴っ飛ばす）
黒崎　こらー。何をするか！
茜　公務執行妨害。あたしも一緒にしよっ引きな！
夏子　お母さん。私たちも立ち合おうよ！
玉枝　そうだね。みんなで行くかい！
黒崎　分かりましたよ。まったく暴力的なんだからー。

と、全員が玄関からソロソロと出て行く。

窓の外が徐々に闇に包まれる。

土手口からヨンが飛び込んでくる。

ヨン 夏子先生ー。夏子先生ーっ！

ヨン、返事がなく通路に走り込む。

ヨン 夏子先生ーっ！ 女将さーん！ ううーっ。夏子先生、オモ
ニがオモニがー。（と、叫ぶが返事がない）

ヨン、衣桁の前で「東京タワー」の反物を眺める。

反物を手繰り寄せ胸に抱え土手口へ去る。
長い間。

鉄男 夏子ーっ！ 女将さーん！

と、玄関から鉄男が現れ通路へ走りこむ。
続いて真介と山田が現れる。

山田 誰がダンプを突っ込ませたんだ？

真介 大方、地上げ屋の連中だろうよ。

鉄男 （出て来て）誰もい居ませーん。（と、衣桁の前で）あれー。

「東京タワー」が無い。どうしたんだ…？

真介 落ち着け。玉枝が仕舞ったんだろうよ。

鉄男 それにしても、みんなは何処へ行ったんだ？

真介 ダンプの事故で、交番でも行ったんだろう。

鉄男 俺も行ってきます！ （と、玄関から去る）

真介 おい。外に突っ立ってないで入れよ…。

竜二 ……。（手に包帯を巻いて現れる）

真介 喧嘩はいいが染め職人が、手を怪我しちゃいけないな。

竜二 俺はもう染め職人じゃないから…。

山田 当りめえだ。ハンチクな真似しやがって…。

真介 まあ、親っさん。竜二の気持ちを聞こうじゃねえか？

山田 染色に戻ってくる気はあるのか？

竜二 お、俺はもう戻れねえ…戻れねえー。

山田 じゃあ。何で俺を呼んだんだ？

竜二 済みません。咄嗟で…。

山田 そうか。分かった！

真介 待てよ。親っさん！

山田、二人に背を向け土手口へ去る。

竜二 俺は…戻れねえ戻れねえよー。

真介 竜二。自分に背くのは良くねえな。（と、戸棚から一升瓶と
湯飲みを出し酒を注ぐ）昔、戦場で地雷にやられて、動かな
くなつた手を恨んで自棄酒喰らって、弟子に愛想つかされた
男がいてな…。

竜二 お、親方…それは？

真介 戦友で染色の大先輩の親方が、「友禪が好きなら、筆を銜え
ても描けるだろう！」と川に突き落とされた…。男は友禪流し

に戯れる石斑魚を眺めて、手前えの意固地を悟って、将棋の駒を握ってリハビリしてな…。

竜二 うううー。親方ー。

真介 竜二。お前の仕出かした事は、誰でも通る迷い道さ。染めの仕事は手描き友禅作家と違い、季節やその日の天候で変化する厄介な生き物だ。だからこそ、染め職人にしか味わえねえ、遣り甲斐と喜びが宿っているんだよ…。竜二、親っさんは悪態ついちゃいるが、お前をずーっと待っていたんだ…。

竜二 親方ー。俺…俺はーっ。

真介 親っさんだけじゃねえ。新宿コマの「新春歌謡ショー」の舞台衣装は、「百目木工房」と「山田染色」には一世一代の大勝負だ。お前の染めじゃないと、納まりがつかねえんだよ。

竜二 親方。俺、染色に戻っていいのかな？

真介 ああ、気にしないで戻ってこい！（と、湯飲みを酒を注ぎ）まあ、その切れた口の中を清めな…。（と、竜二の前に湯飲みを置く）

竜二 （湯飲みを啜り）ううーっ！ 傷に滲みるや…。

真介 竜二、その痛みを忘れねえことだよ。

竜二 あ、はい…。（と、口の中を漱ぎ顔をしかめる）

シリリン。シリリン！

電話が鳴って受話器をとる真介。

真介 おお、鉄男か。やっぱり銀次の仕業か…分かった直ぐ行く…。（と、電話を切り）竜二、ちょっと交番に出かけるが、親っ

さんに頭を下げて頼むんだ…。

竜二 はい。いろいろ有難うございます。

真介、竜二を残して玄関から出て行く。
チリチリン。と軒の風鈴が鳴る。
土手口から白衣姿の風子が現れる。

風子 （笑顔で）お帰りなさいい。

竜二 あ、風ちゃん。只今でいいのかな？

風子 手の怪我は大丈夫？

竜二 （包帯の手を抱えて）大した怪我じゃないよ…。

暫しの間。

二人だけの時が流れる。

そこへ、玄関から鉄男が飛び込んでくる。

竜二と風子、慌てて離れる。

鉄男が二人に目もくれず辺りを物色する。

鉄男 無い無い。無ーーい！

竜二 無いって。何が無いんだよ？

鉄男 「東京タワー」が消えちゃったよー。

鉄男、ガックリと座り込んで頭を抱える。
顔を見合す竜二と風子。

暗転。

―二幕― 六場 一九七〇年 秋

ウォーン、ウォーン、ウォーン……

不気味な警報のサイレンが鳴り続けている。

激しい風雨が窓を叩き桜の枝を揺らしている。

ラジオの声 ……台風一〇号は伊豆半島に上陸し、東海から関東地方

は激しい暴風雨に見舞われています。特に集中豪雨の都心

は、河川が危険水位を越えて氾濫し、床上浸水の地域が出て

いる模様です……。

と、台風接近の放送が流れている。

鉄男と一平が机で色を挿して居る。

玉枝と夏子が繕い物をし、茜が卓袱台で小説を書く。

真介が将棋盤の前で黙考。

直樹と徹が窓から川を眺める。

茜 何時聞いても嫌なサイレンだねえ。

玉枝 あたしや、空襲警報を思い出すよ。

徹 えやー。エライ鉄砲水だちゃー。

直樹 台風の時節は何時もこうさ……。

安代 (奥からきて) アンダ。部屋に雨漏りしてるー。

玉枝 また、二階の雨樋が詰ったかねえ？

鉄男 兄貴、見てくれよ。

徹 おー。わかった……。

玉枝 滑るから気を付けなよ……。

徹 へーい。(と、安代と通路へ去る)

そこへ、玄関から雨合羽姿の黒崎が現れる。

黒崎 いやー。飛んでもない嵐ですなあ……。

真介 おや。嵐の中を見回りがい？

黒崎 上流で水が溢れて避難が始まっています。ここも危険水位を

越えてましたよ。避難の準備した方がいいですね……。

直樹 (外を覗き) 本当だ。土手を越えそうだよー。

真介 鉄男、濡れて困る物は二階に上げる！

鉄男 一平、机の上の物を纏める！

一平 はい！ (と、机の上の物を風呂敷に包む)

玉枝 ほら。茜と直樹も手伝うんだよ！

茜 はいはい。(と、卓袱台を片付ける)

直樹 へーい。(と、ギター抱えて奥へ去る)

ガラッ！ と玄関が開き雨合羽姿の朴が現れる。

朴 鉄男さん。おりますか！
鉄男 朴さん。どうしたんです？
朴 これをお返しにありがとうございました！（と、油紙の包みを出す）
鉄男 （包みを解き）あれっ。「東京タワー」だ！
真介 朴さん。一体これはどういうことだい？
朴 面目ありません。どうにでも裁いてください！
黒崎 成る程ー。一連の事件はお前さんかい。
玉枝 朴さん。そうなのかい？
朴 いや。それはありません！
黒崎 観念するんだな。他にも証拠は上がってるんだよ。
朴 旦那。この間っから何の疑いです？
黒崎 激しい嵐とこの濁流に、昔を思い出したろう？
朴 何のことか、あつしにはサツパリ…。
黒崎 ともあれ窃盗の現行犯だ。署まで同行して貰うよ。
ヨシ （土手口から現れ）それ盗ったのアポジじゃないよ…。
夏子 ヨシちゃん？
朴 ヨシ。お前は黙ってる！
ヨシ 夏子先生。オモニ死んじゃったー。
玉枝 朴さん。本当なのかい？
夏子 どうして。早く連絡してくれなかの！
朴 あつしが屑山に戻った時はもう…。
鉄男 それでヨシが、この「東京タワー」を？
ヨシ オモニが「奇麗だって…」笑ったよ…。
玉枝 （ヨシを抱きしめ）お前は何という子なんだい！
朴 ヨシはあつしが折檻しやした。許してやってください！

真介 巡查長。手錠を掛けるならあの子だよ。
黒崎 だからって、他の容疑が晴れたわけじゃない。
真介 他に何があるんだい？
黒崎 朝鮮人に化け、て屑山に隠れたのは賢いが、お前さんの素性は歴とした日本人だ。
朴 旦那、勘弁してください。あつしは朝鮮人ですよ…。
黒崎 惚けても駄目だよ。戦後直ぐ東北地方に甚大な、災害をもたらしたカサリン台風の中。「草刈り鎌殺人事件」を起こした容疑者の高山睦夫だろう。違うかね？
朴 旦那、人違いですよ。何を根拠にそのような…。
黒崎 屑屋の朴という朝鮮人は、十年前に死んでいるんだよ…。
朴 うーっ。それは…。（と、声を飲む）
黒崎 朴さん。それをどう説明するんだね？
朴 ははは、流石、憲兵上がりは伊達じゃねえや…。（と、開き直り）確かに旦那の言う通り、あつしは歴とした日本人です。但し日本に戻ってくるまでのことですが…。
真介 朴さん。一体どう言うことだい？
黒崎 本官の見立て通り。この男は、「草刈り鎌殺人事件」の犯人ということですよ。
朴 あつしは…いや自分は、満州国境の偵察隊に所属し、偵察活動中にソ連軍の攻撃で孤立して、シベリアに連行された…。
極寒の重労働耐えられず、多くの戦友が死にました…。
全員 （唾を飲み）…。
朴 自分は何とか生き延びて、日本に辿りつきましたが、自分の帰還に驚いた母が、先祖代々の墓に連れて行き、卒塔婆に書

かれた戒名を見せて、女房が弟と夫婦になったと告げられました。正気を失った自分は、卒塔婆を叩き壊して、墓掃除用の草刈り鎌で墓石を削い村を去りました…。

玉枝 あー。何て辛い運命だよー。

黒崎 そんな与太話で言い逃れは出来んよ。その続きはこうだろう？ その草刈り鎌で女房の首を裂いて濁流に蹴落とし、揉み合いになった弟と濁流に流された…。

朴 旦那。最後まで聞いてくたせえよ。

黒崎 水が引いた中州の木に、喉を切り裂かれた男女の死体が二つ。お前さんの遺体は上がらじ仕舞い…。上がらないのが道理さ、軍の偵察隊は泳ぎが達者だからな…。

朴 旦那、大きな間違いですよ。作り話は止めてくたせえ。

黒崎 (手錠を出して) どっちが作り話か署で聞かせて貰うよ。

真介 巡査長。子供の前で手錠は止めろ！

黒崎 ……。(逡巡するが手錠を止める)

ヨン アボジ、アボジー。

朴 すぐ戻るから、ヨンは此処で待っている…。

と、黒崎と朴が土手口から出て行く。

ヨンが玉枝の手を離れて二人の後を追う。

ヨン アボジ、アボジを連れて行かないでーっ！

玉枝 あーっ。ヨーン。外は危ないよ！

ヨンの声 行っちゃだめーっ。わあーっ！

朴の声 あっ。ヨーン。ヨーン！

玉枝 あっ。ヨンが川に落ちたよーっ！

一平 あーっ。桜の枝に掴まってるよーっ。

真介 直樹、外に張ってる虎ロープ持ってこい！

直樹 あっ。はいーっ！(と、玄関へ走る)

鉄男 (腰に反物を巻き) ヨンを助けに行くぞ！

一平、師匠。それは東京タワーすよ…。

鉄男 馬鹿野郎。人命が優先だよ！

真介 鉄男。反物だけじゃ持たんぞ！

直樹 (現れて) 虎ロープの参上ーっ！

真介 よし。虎ロープと捻り合わせる！

と、練合わせ鉄男の腰に巻く。

鉄男と一平が土手口から飛び出す。

続いて男たち全員が出て行く。

ゴーゴーと激しい濁流音。

玉枝と茜、夏子が外を眺める。

玉枝の声 ヨーン。頑張るんだよーっ！

真介の声 鉄男、早く飛ぶんだ！

鉄男の声 みんなー。しっかり掴んでろよーっ！

直樹の声 おお、任せとけーっ！

茜 あー。飛んだーっ！

直樹の声 よっしやー。枝に取り付いたぞ！

夏子 ううっ。痛たっ！

と、下腹を押さえて通路へ去る。

真介の声 鉄男。ヨンを抱えるんだ！

直樹の声 おつ。抱えこんたぞーっ！

真介の声 よーし。みんなで引きあげろーっ。

全員 おおーっ。オーエス、オーエス。オーエス！

と、掛け声と一緒に土手口に現れる。

ロープが緩んで全員折り重なって倒れる。

ゴウゴウと激しく流れる濁流の音。

土手口からヨンを抱えた朴が現れる。

ヨンを板の間に寝かせる。

朴 ヨン、ヨン。ヨーン！

玉枝 ヨンちゃん。ヨンちゃん！

朴 (ヨンを揺すり) 眼を開ける。眼を開けるんだーっ！

ヨン ううーっ。ア、アボジー。

朴 ああ、ヨン。ヨーン！

鉄男 (現れて) ヨンは、どうしたっ！

真介 おおつ。蘇生したかい…。

朴 ううーっ。馬鹿野郎、馬鹿野郎ーっ！

朴、ヨンを抱いて声を出して泣く。

茜が毛布でヨンを包み込む。

土手口から鉄男と直樹、一平、黒崎が戻ってくる。

直樹 いやあ。鉄男の働きは凄かったなー。

鉄男 木登りなら猿も顔負けさ。(と、腰の物を解く)

一平 「東京タワー」台無しになりますたね…。

直樹 形ある物は壊れる。また描き直せばいいさ。

鉄男 宙を飛んだ時閃いたよ。物凄い衣装が出来るぞ！

一平 えっ。怪我の功名つ奴ですね！

鉄男 ははは、仕上げを楽しみに待ってな！

安代 (徹と現れ) 女将さん。雨漏り直りすたよ。

玉枝 あ、ありがとう。ヨン。奥で着替えようね…。

と、玉枝がヨンを連れて通路へ去る。

茫然と上がり框に座る朴。

その顔を徹がマジマジと見つめる。

徹 ありやりやーっ。分かったちやあー。

朴 な、何だ。脅かすねえ！

徹 思い出すた。思い出すたつちやーっ！

安代 素っ頓狂な声で、何を思い出すたのしゃ！

徹 世の中にはこんな事あんだなやー。安代、この人は新田の伊

助さんだよー。

安代 アンだ。何語ってるの？ 伊助さんは戦死すたちやー。

徹 だがらよ、だがら思い出せねがったのよ。

黒崎 何を言ってるんだい？ この男は殺人犯の高山郁男だよ。

徹 んでねんでねー。おらが村の伊助さんがす。

朴 おっ。お前は花山沢の…。(と、徹をじーっと見つめる)

徹 はえー。徹ど舎弟の鉄男でがすよー。

朴 ありやあ。花山沢の洩垂れ餓鬼供だがー。

徹 んでがす。これは鶯沢がらきた嫁っ子の安代…。

朴 ありや。長三郎叔父の娘っこだがや？

安代 はえ。三女の安代でがす…。

黒崎 (動揺して) その伊助さんが、何で朝鮮人なんだい？

朴 旦那。人間が鬼籍に入りや。国籍に意味ありませんや。

真介 朴さん。これはどういう謎だい？

朴 村を追われたあつしは、どこをどう彷徨い歩いたか…。流れ

れ着いたのが新宿下ヤ街の屑山でやした。軍隊時代に朝鮮で

散々甚振ったあつしらを、救ってくれたのが朝鮮人親娘…。

人の情と温もりをくれたのは、ヨンの母親でやした…。

玉枝 (通路から現れ) 朴さん。ヨンが呼んでいるよ。

朴 あ、どうも…。(と、上がり框から通路へ)

黒崎 伊助さんとやら、済まないことをしたな…。

朴 (立ち止まって振り返り) 旦那、あつしはヨンのアボジだ。

これから先も朝鮮人廃品回収業の朴でやすよ…。

と、敬礼をして通路へ消える。

黒崎、上がり框にへたる。

黒崎 ははは、目も鼻も狂っちゃまったなあ。

真介 巡查長。悩むこたーねえさ。

黒崎 ああ、古い耄れの夢は儚ないですな…。

真介 寄る年波に勝てねーってことよ。

黒崎 あははは…。

と、蹠跟め来ながら玄関から。

そこへ、通路から下腹押さえた夏子が現れる。

夏子 て、鉄男さーん！

鉄男 夏子。どうしたんだ！

夏子 来たみたい！

鉄男 来たって、何が？

夏子 じ、陣痛らしい…。

鉄男 えーっ。だつて予定日は先だろう？

安代 この騒ぎで早まったな。

玉枝 鉄男、救急車を呼びな！

鉄男 あ、はい。(と、ダイヤルを回す)

夏子 一平君。風ちゃんを呼んで来て！

一平 あ、はいーっ。(と、玄関から飛び出て行く)

鉄男 あ、四谷消防署ですか…妻が急に産気づいて…え、えーっ。

そんな困りますよーっ！

玉枝 どうしたんたい？

鉄男 台風で救急車出払ってるって！

玉枝 じゃあ。タクシー呼ぶんだね！

鉄男 あ、はい。(と、慌てて電話帳を繰る)

風子 夏子先生。大丈夫ですか？

と、風子と一平が土手口から駆け込んでくる。

茜 (外を覗き) これじゃあ。タクシーも無理だよ。

鉄男 えーっ。どうするんだよーっ。

安代 こうなったら、ここで産むすかねーな!

鉄男 義姉さん。ベゴのお産じゃないんだよ。

安代 お産は人もベゴも同んなずだー。

鉄男 医者も産婆も居ないんだよ…。

徹 鉄男。安代の産婆なら間違えねえ!

夏子 鉄男さん、アメリカで自然分娩のラマーズ法を、学んできた

から大丈夫。私ここで産むわよーっ!

鉄男 え、えーっ!

安代 妊婦は動がせね。ここに寝床作るすかねな!

玉枝 (鉄男と一平に) 机でベッド作りな!

鉄男・一平 はいーっ。(と、友禅机でベッド作る

玉枝 茜はお湯を用意しておくれ…。

茜 はいよー。(と、薬缶を手に奥へ去る)

玉枝 風ちゃん、布団を運ぶから手伝って…。

風子 はい。(と、玉枝と奥の通路に去る)

竜二 親方ー。道路に水が溢れてるよーっ。

と、土手口から竜二が走り込んでくる。

真介 土嚢を積むから手の空いてる者は来きてくれ!
直樹 うーすっ!

と、真介、竜二、徹、直樹、一平が出て行く。

玉枝と風子が布団を運んでくる。

鉄男と安代がベッドに夏子を寝かせる。

玉枝が衣桁でベッドを仕切る。

風子 鉄男さんも、中に入るのよ。

鉄男 えっ。俺もかよー?

風子 ラマーズ法のお産は、夫の付き添いが常識です。

と、風子が鉄男を強引に囲いの中へ押し込む。

ゴーゴーゴーツ!

吹きすさぶ風雨と濁流の音が響いてくる。

暗転。

—二幕— 七場 一九七〇年 秋

誰も居ない、風雨と濁流の音が響く室内。

真介 もう土手を越えたか…。

竜二 はい。膝上まで来てますよ。

風子の声 鉄男さん。夏子先生の手をしっかりと握って…。

鉄男の声 うん。わかった!

風子の声 ヒツ、ヒツ、フー。ヒツ、ヒツ、フー。の要領で息継ぎをくりかえすのよ。

鉄男の声 ああー。分かった分かった。ヒツ…ヒツ…フー。ヒツ…ヒツ…フー。

風子の声 違う違う。規則正しいテンポよ。はい！

鉄男の声 ヒツヒツ、フー。ヒツヒツ、フー。

風子の声 もう鉄男さんは邪魔だから出て行って！ 夏子先生、行くわよ。安代さんと女将さんも、夏子先生の手を握って。ヒツ、ヒツ、フー。ヒツ、ヒツ、フー。

風子・玉枝声 ヒツ、ヒツ、フー。ヒツ、ヒツ、フー。ヒツ、ヒツ、フー。ヒツ、ヒツ、フー。

鉄男 だ、駄目だあ…。(と、這い出てくる)

茜 おら。退きなーっ！ 邪魔だよ邪魔ー。

と、盥を抱えた茜が鉄男を蹴飛ばす。

鉄男、神棚に柏手を打って合掌。

鉄男 ああ、神様仏様、イエス様。無事に赤ん坊が産まれますよう

に…。摩訶般若波羅蜜多心經…観自在菩薩 行深般若波羅蜜

多時 照見五蘊皆空 度一切苦厄。

風子の声 ヒツ、ヒツ、フー。ヒツ、ヒツ、フー。

夏子の声 ヒツ、ヒツ、フー…ううっ！

玉枝の声 夏子。手をすっかり握って！

安代の声 はい。息張って息張ってーっ！

風子の声 はい。ヒツ、ヒツ、フー。

夏子の声 ヒツ、ヒツ…ウウーッ、ウオーーッ！

安代の声 もっともっとー。息気張るんだよーっ！

夏子の声 ウウーッ、ウオーッ！ ウオーッ！

鉄男 あ、神様仏様。色即是空 空即是色 受想行識 亦復如是

安代の声 はえー。もっともっと、息張ってーっ！

風子の声 もう少しもう少しよーっ！

玉枝の声 頭が出てきたよー。

夏子の声 ウウーッ、ウオーッ！

安代の声 はえはえ、もう一息だよーっ！

夏子の声 ウウーッ、ウオーッ。ウオオオオオーッ！

ピガピガッ！ ドーン！

バリバリバリーッ！

と、閃光が奔り落雷と共に電灯が消える。

「ウワッ！」と鉄男の悲鳴。

瞬間、オギヤーツ、オギヤーツ！

チカチカッ！ と点滅して電灯が点く。

風子 (囲いから出てきて) 産まれたわよーっ。

鉄男 (土手口に走り) みなさーん。赤ちゃんが産まれましたーっ！

真介の声 おおっ。産まれたかーっ！

と、真介と竜二、徹、直樹、一平が入ってくる。

風子 安代さんが産湯に入れてまーす。

直樹 で、どっちだったい？

風子 どっちって？

直樹 性別よ。勿論、男の子だろう？

風子 可愛い女の赤ちゃんよ。

直樹 くーっ。おチンチンないのー？

風子 あんな占い当たる分けないでしょ！

玉枝、赤ん坊を抱いて出てくる。

玉枝 お前さん。夏子とそっくりだよー。

真介 おお、どれどれ…。

と、抱きとって顔を崩す真介。

茜と安代が囲いの衣桁を退す。

玉枝が赤ん坊を夏子の側に寝かせる。

全員、夏子のベッドを取り囲む。

風子 夏子先生、おめでとう。

夏子 ありがとー。みんなのお陰よ。

鉄男 みんな。有難う有り難ーっ。ううーっ。

直樹 何だ何だ、親父の泣きつ面だよ。

真介 嬉し泣きというやつさ…。

直樹 あれ、親方も？

真介 夏子の時立ち合えなかったでな…。

直樹 クー。これぞ鬼の目にも涙だねー。

全員 あはははははー。(と、爆笑)

嵐が止んで窓に虹が映えている。

一平 あーっ。虹だーっ！

真介 おお、いい彩りだねえ。

風子 あら。嵐が去ったのね…。

鉄男 夏子。「彩」どうか？

夏子 いいわね。手描き友禅の「彩」…。

直樹 (『今日は赤ちゃん』を歌う)

真介 玉枝、初孫の祝いといこうかい？

直樹 いいねいいねえ。「彩」ちゃんの誕生祝い。

茜 直樹はただ酒が嬉しんだろう？

真介 ははは、文無しの臭覚は特別だな。

玉枝 (茜と風子に) 手伝っておくれ…。

茜・風子 はい、はい。

竜二 鉄男、(と、手を握り) 安産で良かったなあ。

鉄男 ああ、ありがとうよ…。

竜二 後は舞台衣装に全力投球だぜ！

鉄男 (晴れた顔で) ああ、思いつ切り暴れてやるさ！

竜二 俺に染めは任せときな！

鉄男 ああ、しっかり頼むぜ相棒！

竜二 俺、親つさん呼んでくるよ。

と、竜二が土手口から走り去る。

夫々が、誕生祝いの用意に活き活きと動く。
暗転。

その様子を可笑しがる鉄男と夏子。
通路から晴れ着姿の玉枝が現れる。

―二幕― 八場 一九七〇年 秋

ガランとして何もない工房内。

窓際にベッドメリーのペビーベット。

上がり框にリュックとギターがある。

真介が晴れ着姿で詰め将棋をしている。

その真介を8ミリカメラで撮影する直樹。

卓袱台でコーヒーを飲む鉄男と夏子。

真介 直樹。そのシヤカシヤカは止めねえか。

直樹 えっ、なんでよ？

真介 落ちつかねえんだよ。

直樹 映写会で大笑いしてたじゃない。ほら、動いて動いて…。

真介 ん？ こうかつこうか…。(と、駒を早打ちする)

直樹 お、いいぞいいぞ、もつともつとー。

真介 こうかこうかー。(と、東京音頭を手踊りする)

直樹 ははは、その調子その調子…。

と、直樹が角度を変えて真介を撮りまくる。

玉枝 (夏子に) 何をしてるんだい？

夏子 工房の記録に残しておくんだって。

玉枝 戦争で焼け残った工房もお別れだねえ。

夏子 戻ってくる時は近代的ビルの中よ。

鉄男 銀次さんが交渉してくれたお陰でね。

玉枝 あたしや、銀次が染色に戻るのが嬉しいよ。

夏子 これでみんな行き先が決まったわね。

玉枝 約一名。定まらないのが居るがねえ。

直樹 (8ミリカメラを向け) その居候生活もオサラバです。

玉枝 おや、何処か就職決まったのかい？

直樹 決めました。俺の仕事場はこの地球だって！

玉枝 何、馬鹿なこと言ってるんだい！

鉄男 全く、何を考えているんだか？

真介 ははは、直樹らしくていいじゃねえか。

直樹 ホコ天のライブを皮切りに、「新春歌謡ショー」を観た足で、

横浜・横須賀と流れて中津川フオークジャンボリー…。

直樹、8ミリカメラをリュックに背負う。

ジャジャジャン。とギターを爪弾く。

直樹 それではみなさん。地球一巡りの旅に出発します。

夏子 直樹。いつになく格好いいわねえ。

玉枝 なーに、三日と経たずに戻ってくるさ。

直樹 いえ、二度と此の地を踏む事はありません！

玉枝 (メモを出す) これが引越先先の住所だよ。

直樹 いえ、お氣遣いはご無用です…。

玉枝 そうだねえ、お前の決意が壊れるといけないねえ。

直樹 ああー、やっぱ預かっておきましようか？

鉄男 まったく。言ってる側からこれだよ。

直樹 ではではみなさん。お達者でーっ！

玉枝 ああ、気をつけて行くんだよ…。

ギターを爪引き『星屑の町』を歌って土手口から去る。

入れ違いに玄関から、背広姿の川瀬が現れる。

川瀬 今日は。ご無沙汰しています。

玉枝 おや、どちら様だい？

夏子 お母さん、川瀬所長だよ。

玉枝 えーっ？ すっかりジェントルマンなって、何処のお偉いさ

んかと見間違えたよー。

川瀬 東京で「被爆者の会」の会合がありました…。

玉枝 そうかい。広島からご苦労さんだねえ。

川瀬 「歌謡ショー」を観るのが目的ですがね。

鉄男 所長、「歌謡ショー」を観てくれるの？

川瀬 風ちゃんから、長い手紙を貰ってね…。

鉄男 えっ。風ちゃんが？

川瀬 鉄男君と竜二君の素晴らしい仕事を、必ず観に来てくださ

い。観に来ないと一生後悔しますよ！

真介 はっはは、それは嬉しい招待状だねえ。

夏子 奥さんは、一緒にこなかったの？

川瀬 暮れに体調を崩して今回は一人で。「歌謡ショー」の土産話

を楽しみにしてるので、しっかり観賞して行きますよ。

玉枝 みんな、新しい出発のようだねえ…。

玄関から、安代が歌う『川の流れるように』が聞こえて、

茜、風子、竜二、一平、徹、安代、銀次、天が現れる。

風子 あら、所長。いらしてたんですか？

川瀬 今着いた所だ。どうだった「歌謡ショー」は？

風子 それはもう。演歌の女王が「東京タワー」に絡む登り龍の猩

々緋の陣羽織を翻して、花道から現れた時は最高でした！

茜 それと全身ラメ折りの黒装束に、猛虎お躍らせた悪党の親

玉、水野十郎左衛門との大立ち回り…。

安代 おらは、町奴と侍奴の舞りに鳥肌立ちました…。

竜二 (一平に) お前の仕事だぜ！

一平 へへっ、(と、親指を立て) ですね！

徹 まんず。田舎にええ土産話ができました…。

玉枝 「歌謡ショー」は成功だったようだね？

茜 成功も成功。拍手万来の大成功ですよーっ！

山田 観劇前に、ネタばらされちゃ興ざめたなあ…。

と、土手口から着流し姿の山田が現れる。

真介 親っさん。粧し込んで早えじゃねーか？

山田 「歌謡ショー」の舞台衣装が気になってな…。

風子 あの舞台衣装を仕上げた、百目木工房と山田染色の仕事、私感動して無性に涙が出ました…。

山田 ほう、それは嬉しいねえ。

真介 この調子で東京友禅の、伝統守ってくれると嬉しいねえ。

一平 親方。お任せください！

真介 ははは、伝統って奴は良い女と一緒に、しっかり守ってやらねえと、直ぐどつかへ行っちゃまうからな。

玉枝 おや、それはあたしのことかい？

真介 馬鹿を抜かせ。お俺から逃げられやしねえだろう？

玉枝 そう言われてみると、そのようだねえ。

山田 何だい。チョンガーを前にノロケかい？

真介 (外套を羽織り) 親っさん。夜の部にはちと早えが、久しぶりに新宿をぶらっつこうじゃねえかい？

玉枝 嬉しいねえ。何十年振りの道中だい…。

真介 俺が十九でお前が十七…。戦後も二十五年経てば、世の中も染色の世界も変わるわなあ。

玉枝 お前さん。あたしらの青春はこれからだよ！

と、真介に玉枝が寄り添い玄関から去る。

茜 いよーっ。ご兩人！

一平 くー。江戸っ子はかっけーなあ。

山田 チョンガーには非常に厳しいっ！

川瀬 親っさん。私がお供しますよ。

山田 色気ねえ道行きだが我慢するかい。

川瀬 親っさん。雨だよ？

山田 春の小糠雨よ。濡れてまいろう。

竜二 いよっ。月形半平太ーっ！

全員 あっはははは。

と、山田と川瀬が面白可笑しく去る。

徹 鉄男、そろそろ汽車の時間だ…。

鉄男 あ、元気にやってるって…。

安代 (茜と夏子に) えらぐお世話なりすた…。

夏子 春には「彩」を連れて伺います。

安代 待つてるで、必ず御座えんよ！

と、徹と安代が玄関から出て行く。

銀次 さーてと。(天に) 茜の荷造りだよ。

天 へーい。合点でやす！

茜 あ、割れ物あるから気を付けてよ！

銀次 心配するねえ。こちらら引っ越しのプロよ…。

天 おーっ、いけねえー。(と、蹴躓き素っ転ぶ)

茜 あーっ。ちよっと待ちなーっ！

と、銀次と天、茜が通路の奥へ駆け込む。

風子 茜さんと銀次さん。本当に仲がいいですね。

鉄男 二人の付き合いは年が入ってるからな。

風子 さあ。私も荷造りをしないと…。

一平 あつ、俺手伝いまーす。(と、通路に走り去る)

風子 あつ？ あ、ありがとー。

竜二 つたくよー。お前の弟子はお邪魔虫だなー！。

鉄男 竜二がすっかり知らないからだろ？

夏子 そうよ竜二君。風ちゃんは風の子よ。すっかり掴まえていな

いと、どっか飛んで行っちゃうわよ。

風子 (竜二に) 飛んで行っちゃうわよ！

竜二 風ちゃん！ (と、左肘を叩く)

風子 はーい。夏子先生、明日は彩ちゃんの面倒を見ますから、夫

婦水入らずで存分に「歌謡ショー」をご鑑賞ください！

と、竜二と風子腕を組んで通路へ去る。

鉄男 そろそろ、俺たちも荷造りしないとなー。

夏子 荷造りはいいけど引越す先がねえ。

鉄男 何だ。夏子にしちや往生際が悪いな…。

夏子 だって部屋探しは任せろって、六畳一間の共同炊事場と共同

トイレのアパートよ。家族が住む部屋じゃないわよ。

鉄男 ビルが出来るまでの辛抱だよ。そのうちこの腕一本でアトリ

エ付きの邸宅を建ててやるさ。

夏子 はいはい。期待しないで待ってるわ…。

鉄男 しかし、十五の春に東京に出て来て、手描き友禅を修行して十五年。夏子と一緒にあって「彩」が生まれて…何とも去りがたい気持ちだなあ。

夏子 何よ。しんみりしちやって。

鉄男 戻って来る時は、工房も診療所も新しいビルの中…。町も人も染色の世界もどう変わるんだらうな…。

夏子 時代と共に変わればいいのよ。

鉄男 そう簡単に行くといいがね。夏子、勝負いこうか？ (と、将棋盤に駒を並べる)

夏子 私、将棋なんて出来ないわよ！。

鉄男 新婚旅行の宿でやっただろう？

夏子 ああ、ハサミ将棋…。確か七勝七敗だったわね。

鉄男 引越す前に、決着を付けておこうよ。

夏子 あら、それなら私の勝ちに決まってるわ。

鉄男 勝負は下駄を履くまで分らんよ。

鉄男・夏子 ジャンケンホイッ。アイコでしょ。しよっ！

そこへ、ベビーベットから子供の泣く声。

鉄男 「彩」が起きちゃったよー。

夏子 あら、母乳の時間だわ…。

鉄男 いや、あれは俺を呼んでるんだよ。

夏子 違うわよ。私を呼んでるの！

鉄男 俺、だってば！

夏子 こらーっ！ (と、鉄男を突き飛ばす)

鉄男 痛てえーっ。

夏子 鉄男さん！ 彩が彩がーっ！

鉄男 えっ。彩がどうしたっ！ (と、駆けつける)

夏子 彩ー。頑張れ頑張れーっ！。

鉄男 ああ、凄い凄ーい！

夏子 あははは、彩が寝返り打ったあー。

鉄男 はっはは、彩ーっ。高い高いーっ！

と、鉄男が赤ん坊を高い高いする。
卓袱台の将棋盤に駒が乱れている。

—幕—

